Internship Report

2024

WATASHI
×
DWCLA

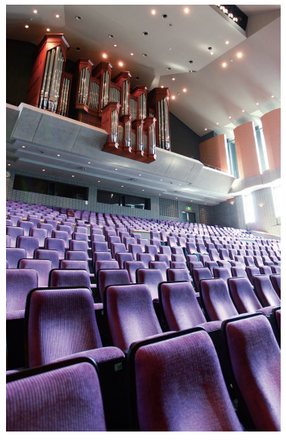
同志社女子大学
キャリア支援部　キャリア支援課
https://www.dwc.doshisha.ac.jp/

○京田辺キャンパス
〒610-0395　京都府京田辺市興戸
TEL. 0774-65-8415／FAX. 0774-65-8449
［E-mail］career-t@dwc.doshisha.ac.jp

○今出川キャンパス
〒602-0893　京都市上京区今出川通寺町西入
TEL. 075-251-4135／FAX. 075-251-4276
［E-mail］career-i@dwc.doshisha.ac.jp

Always rising to a new challenge
いつの時代も、新しきを生きる。
同志社女子大学
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Founded in 1876

2024年度インターンシップを終えて



キャリア支援部
部長　吉岡　康博

現代社会は、地球温暖化や環境汚染について、国際社会が取り組まなければならない重要な課題があります。さらに、人工知能技術（ＡＩ）や情報通信技術（ＩＣＴ）の急速な発展によりＤＸ人材の育成が急務です。生成ＡＩへの対応やジェンダーギャップの解消も積極的に取り組まなければなりません。まさに人類の生存と経済活動の両立が必須であり、一刻の猶予もなく、その最適解が求められています。今年も、国際情勢の緊迫化による世界経済の不透明さや円安、物価高、人材不足など様々な影響と問題が発生しています。

大学は、課題解決に取り組む現代社会へ学生が円滑に移行できるよう、社会的・職業的自立が継続的にできるよう教育と環境づくりに寄与することが求められています。

本学のキャリア教育は、主体的に自らを高めつつ、他者のため、社会のために役立つ人物養成を目的に、授業や様々なプログラムを充実させるべく全学体制で取り組んでいます。

インターンシップは、職業現場において、人と学び、人から学ぶことで、創造・問題発見・解決の能力を高めることができます。自らの将来を見据え、確かな職業観を醸成し、社会的・職業的自立を促すために最も有効であると考えています。1999年度から正課科目として開講しています「インターンシップ」に、今年度は現地あるいはＷＥＢ、または、両方によるインターンシップが多数実施され、43名の学生が参加しました。そのインターンシップ実習を効果的に行うため、事前指導講義と事後指導講義も実施しております。

本学は、当プログラムの更なる発展・充実を図る所存ですが、実習先の皆様のご協力なくして、その実現を為し得るものではありません。皆様におかれましては、本冊子をご一読いただくとともに、本学インターンシップに対し、一層のご理解とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申しあげます。最後になりましたが、ご多用の中、快く受け入れ、ご指導を賜りました企業・自治体・団体の皆様に心から感謝し、御礼申し上げます。

2025年　2月

同志社女子大学 学部学科・大学院

大学

学芸学部
- 音楽学科
  - 演奏専攻
  - 音楽文化専攻
  - 演奏についての実践的な技能や音楽の専門的知識の修得はもとより、総合大学ならではの多様な学問領域に触れることで、豊かな芸術的価値観を養い、幅広く社会に貢献できる能力を養います。
- メディア創造学科
  - アートとデザイン、マスメディアとカルチャー、メディアとテクノロジー、エンターテインメントとビジネスの4分野を組み合わせて自分の目標にあった学びをデザイン。グローバルかつ多様なメディアに触れながら、創造力や表現力を養います。
- 国際教養学科
  - 国際感覚を磨くため、全員が留学を経験。期間や地域を選択できる柔軟性の高いプログラムを用意。語学力だけでなく、国際社会の諸問題を英語で考え、発信する総合的な能力を磨きます。

現代社会学部
- 社会システム学科
  - 現代社会で不可欠な「多文化コミュニケーション」「課題発見・解決」「データサイエンス」の力をベースに、6つの領域から現代社会が抱えるさまざまな課題にアプローチします。関心に合わせてコースを選択し、自分だけの学びをデザインするのが特色です。
- 現代こども学科
  - 教育・保育に関わる学びに基づき、こどもの成長に寄り添う実践力を身につけるだけではなく、こどもを取り巻く現代社会の諸問題を学び、こどもが健全で幸せに生きることができる社会づくりに貢献できる人を育成します。

薬学部
- 医療薬学科
  - 医療や創薬をはじめ、幅広い分野で活躍できる知識や技能を身につけるほか、総合大学ならではの環境で教養や倫理観を培い、人間性豊かな医療人を育成します。

看護学部
- 看護学科
  - 総合大学ならではの多様な学びや学生間の交流を通して、生命と向き合う人間力や人を思いやる心を磨きます。また、現場で必要な臨床判断能力や実践力、キャリアデザインなどの段階的な修得を図っています。

表象文化学部
- 英語英文学科
  - 高度な英語運用能力を土台に英語圏の文学・文化・言語・コミュニケーションの4領域に専門的にアプローチする方法を学びます。英語のもつ奥深い世界を知るとともに、社会で通用する論知的かつ批判的思考力、多文化共生的視点を体得します。
- 日本語日本文学科
  - 古典文学・近現代文学、さらには映像や絵巻など、日本の表象文化と言葉について学びます。また、世界に誇り得るこれら表象文化の蓄積を、現代の人々に広く魅力的に正しく伝える力を身につけることも重視しています。

生活科学部
- 人間生活学科
  - 「すまい」「よそおい」「つながり」3分野の学びを通して、多様化が進む人間生活を俯瞰し、豊かで潤いあるくらしの創造をめざします。実習科目を充実させて、アイデアを具体化する実践力も磨きます。
- 食物栄養科学科
  - 栄養学や食品学、調理学を中心に、「食」の可能性を追究します。管理栄養士やフードスペシャリストなどの、「食」の専門家をめざして、人々の健康的な生活への貢献をめざします。
  - 食物科学専攻
  - 管理栄養士専攻

専攻科
- 音楽専攻科

大学院
- 文学研究科
  - 英語英文学専攻〈博士課程（前期）・博士課程（後期）〉
  - 日本語日本文化専攻〈博士課程（前期）・博士課程（後期）〉
  - 情報文化専攻〈修士課程〉
- 国際社会システム研究科
  - 国際社会システム専攻〈修士課程〉
- 薬学研究科
  - 医療薬学専攻〈博士課程（４年制）〉
- 看護学研究科
  - 看護学専攻〈博士課程（前期）・博士課程（後期）〉
- 生活科学研究科
  - 生活デザイン専攻〈修士課程〉
  - 食物栄養科学専攻〈修士課程〉
    - 食物栄養科学コース
    - 実践栄養管理学コース

2024年度

同志社女子大学　インターンシップレポート

目次

CONTENTS

- 2024年度インターンシップを終えて
- インターンシップ制度について……2
- 年間スケジュール／
  事前・事後指導講義概要……3
- 実施状況……4
- 実習先一覧……5
- インターンシップＩＡ・ＩＢ　体験レポート…7
  - ・学芸学部
    音楽学科　メディア創造学科
  - ・現代社会学部
    社会システム学科　現代こども学科
  - ・表象文化学部
    英語英文学科　日本語日本文学科
  - ・生活科学部
    人間生活学科　食物栄養科学科
- オープンインターンシップ（大学協定型）
  体験レポート…30
  - ・現代社会学部
    社会システム学科
  - ・表象文化学部
    日本語日本文学科
- アンケート結果……33

インターンシップＩＡ・ＩＢ

１．目的

（１）学生がキャンパスの中で修得した知識や理論を現実のフィールドで実践し、体験することにより、キャンパス内での学習効果を一層高める。
（２）学生個々の自主性、独創性、協調性を養い、自立心を高める。
（３）実社会における企業等の現場を体験し、地についた職業観を形成する貴重な機会とする。

２．制度概要

（１）科目設置区分・期間・時間・単位

正規授業科目として共通学芸科目区分に設置しています。

・「インターンシップＩＡ」通年１時間１単位（選択）
・「インターンシップＩＢ」通年２時間２単位（選択）
※単位が認定されるのは、次の条件を満たす実習に限ります。
①受入企業・団体と本学が直接協定を交わすこと。
②夏期休暇中に実施され、原則としてＩＡの場合は「実習日数５日間以上８日間未満かつ総実習時間30時間以上」、ＩＢの場合は「実習日数８日間以上かつ総実習時間48時間以上」の条件を満たしていること。

（２）対象および履修年次

全学部全学科　　2年次生以上

（３）実施形態

実地での実習だけでなく、学内で実施する事前・事後指導を含めて一連のプログラムとなっています。

6月	事前課題	「インターンシップ実習に対する心構え」及び「実習先企業・団体またはその業界の最近の動向と抱えている問題点等」についてレポートを提出する。
6月・7月	事前指導講義	実習に先立ち、実習の目的意識・学習目標を明確にする。実習先を研究したり、ビジネスマナーを習得する。
8月～9月	実習	実習期間は夏期休暇中の1週間～1ヶ月程度。 実習中は実習簿（日誌）を記入。実習終了後は実習報告書を記入し提出する。
9月末	事後指導講義	実習を振り返り、得られた成果を今後の学生生活や学習にどう活かしていくかを考える。
	事後レポート	インターンシップを通して学んだこと、気づいたことを記述する。

（４）成績

出席状況、実習先からの成績報告書、実習簿、及び報告書をもとに成績評価を行う。

（５）実習費

2,000円

オープンインターンシップ（大学協定型）

大学と各地域のインターンシップ推進団体や受入先企業・団体とが協定を締結し、実習生選考から実習までその実習受入先の方針・計画に従って進められます。

同志社女子大学が推奨するその他のインターンシップ

□インターンシップ

公益財団法人大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラムで、エクスターンシップ（就業体験）コース、プロジェクト企画実践コースからなる。（正規授業科目として共通学芸科目区分に設置）

□インターンシップⅡ

各学科の応用・各論科目と関連させ、プログラムを策定。企業、自治体などの各行政機関、関連法人等で実習を実施。（正規授業科目として応用・各論科目区分に設置）

インターンシップIA・IB、オープンインターンシップ(大学協定型) 年間スケジュール

実習以外は学内実施

月	インターンシップＩＡ・ＩＢ	オープンインターンシップ（大学協定型）
4月	●実習生募集説明会 ●募集	
5月	出願 実習生選考（書類、面接） 選考結果発表	●学内で実習生募集
6月	●事前指導講義（2日）	●インターンシップ推進団体または実習先による選考 ●事前指導講義（2日）
7月		
8月	●インターンシップ実習	●インターンシップ実習
9月	●実習生から実習報告書提出 ●実習先から成績報告書提出 ●事後指導講義（1日）	●事後指導講義（1日）
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月	●実習生へ単位授与（該当者のみ）	
備考		●各地域の推進団体によりスケジュールは異なる ●春期インターンシップを実施している地域もあり

インターンシップIA・IB、オープンインターンシップ(大学協定型) 事前・事後指導講義概要

	講義名	講義内容	学習目標
1	事前指導講義　①	インターンシップ概要説明	インターンシップの趣旨等について理解する
2	事前指導講義　②	目標・課題設定	・インターンシップで何を学ぶのかを理解する ・インターンシップに参加するにあたっての目標・課題設定を行う
3	事前指導講義　③	目標・課題設定 組織／企業(団体等)研究	・目標達成、課題を解決するための、インターンシップでの取り組み方について学ぶ ・組織／企業（団体等）研究の方法について理解し、レポートを作成する
4	事前指導講義　④	ビジネスマナー講習 ＜基本編＞	言葉遣い、電話対応、来客応対などのビジネスマナーを身につける
5	事前指導講義　⑤	ビジネスマナー講習 ＜応用編＞	言葉遣い、電話対応、来客応対などのビジネスマナーを身につける
6	事前指導講義　⑥	実習前準備､実習に当たっての確認・注意	実習前の準備、実習にあたっての注意事項を確認する
7	事後指導講義　①	実習ふりかえり	・事前目標・課題に対する到達度をふりかえる ・インターンシップを今後に活かすために、下記①～④について整理する ①仕事内容を整理する／仕事に求められている力を整理する ②働く魅力を考える ③実習先や業界の今後の展望を考える ④訪問後の気づきをまとめる
8	事後指導講義　②	グループディスカッション及び発表	学生同士で実習状況や目標への到達度合いを話し合い、確認することで、自らの学びをブラッシュアップし、インターンシップのまとめを行う
9	事後指導講義　③	全体総括・今後に向けて	

※2024年度プログラム。

①インターンシップＩＡ・ＩＢ

都道府県別

ブロック	都道府県	受入先数	実習先数	実習生数
関東	東京都	1	0	0
東海	静岡県	1	0	0
東海	三重県	1	1	1
北陸	福井県	1	0	0
近畿	滋賀県	4	1	1
近畿	京都府	18	13	16
近畿	大阪府	27	10	18
近畿	兵庫県	4	0	0
近畿	奈良県	2	1	1
四国	高知県	1	0	0
海外	タイ	1	1	4
海外	マレーシア	1	1	2
	合計	62	28	43

業種別

業種	受入先数	実習先数	実習生数
建設業	1	1	2
製造業	3	2	5
放送業	2	0	0
運輸業	3	1	4
卸売業	3	2	2
小売業	11	2	2
金融業	3	1	1
映像・音声・文字情報	1	0	0
専門サービス業	1	0	0
宿泊業	5	2	2
飲食店	1	0	0
その他の生活関連サービス業	2	2	2
旅行業	2	2	3
技術サービス業	1	1	1
学校教育	3	0	0
医療業	1	1	1
その他の事業サービス業	2	1	2
政治・経済・文化団体	2	1	2
地方公務	8	6	8
広告業	1	1	3
情報通信業	5	1	1
保険業	1	1	2
合計	62	28	43

②オープンインターンシップ（大学協定型）

都道府県別

ブロック	都道府県	希望者数	実習先数	実習生数
北陸	富山県	1	1	1
近畿	大阪府	2	1	1
近畿	京都府	1	1	1
近畿	和歌山県	1	1	1
合計		5	4	4

業種別

業種	実習先数	実習生数
電力	1	1
地方公務	3	3
合計	4	4

合　計

	実習先数	実習生数
①インターンシップＩＡ・ＩＢ（直接協定型）	28	43
②オープンインターンシップ（大学協定型）	4	4
合計	32	47

①インターンシップＩＡ・ＩＢ

ブロック	企業・団体名称	ブロック	企業・団体名称
東海	伊賀市役所	近畿	株式会社新通
近畿	近江八幡市役所	近畿	株式会社スタジオアリス
近畿	香芝市役所	近畿	株式会社西武・プリンスホテルズ ワールドワイド　ザ・プリンス京都宝ヶ池
近畿	岸和田市役所		
近畿	京田辺市役所	近畿	医療法人社団石鎚会
近畿	豊中市役所	近畿	高見株式会社（TAKAMI BRIDAL）
近畿	株式会社内田洋行	近畿	株式会社DAY TO LIFE
近畿	SMBC日興証券株式会社	近畿	株式会社日本旅行
近畿	大阪トヨペット株式会社	近畿	株式会社ノバレーゼ
近畿	株式会社関西マツダ	近畿	株式会社パソナグループ
近畿	一般財団法人大阪教育文化振興財団 キッズプラザ大阪	近畿	富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
		近畿	明治安田生命保険相互会社
近畿	京セラコミュニケーションシステム株式会社	近畿	株式会社ロマンライフ
近畿	株式会社京都ホテル	海外	株式会社JTB　マレーシア支店
近畿	株式会社きんでん　京都支店	海外	日本航空株式会社　バンコク支店

②オープンインターンシップ（大学協定型）

ブロック	企業・団体名称等	名　　称
関西	－	大阪府庁
関西	－	舞鶴市役所
関西	わかやま就職支援センター	和歌山県庁
北陸	福井県インターンシップ	北陸電力株式会社

インターンシップＩＡ・ＩＢ 目次

【あ】
伊賀市役所……18
株式会社内田洋行……17
SMBC日興証券株式会社……25
近江八幡市役所……22
大阪トヨペット株式会社……10
【か】
香芝市役所……14
株式会社関西マツダ……13
岸和田市役所……9, 10
一般財団法人大阪教育文化振興財団
　キッズプラザ大阪……16
京セラコミュニケーションシステム株式会社
　……22
京田辺市役所……15, 29
株式会社京都ホテル……27
株式会社きんでん　京都支店……15, 21
【さ】
株式会社JTB　マレーシア支店……13, 21
株式会社新通……8, 11, 12
株式会社スタジオアリス……18
株式会社西武・プリンスホテルズ
　ワールドワイド　ザ・プリンス京都宝ヶ池
　……23
医療法人社団石鎚会……8
【た】
高見株式会社(TAKAMI BRIDAL)……12
株式会社DAY TO LIFE……23, 26, 28, 29
豊中市役所……24
【な】
日本航空株式会社　バンコク支店……14, 19, 20
株式会社日本旅行……11
株式会社ノバレーゼ……9
【は】
株式会社パソナグループ……20, 27
富士フイルム
　ビジネスイノベーションジャパン株式会社
　……17
【ま】
明治安田生命保険相互会社……24, 26
【ら】
株式会社ロマンライフ……28

オープンインターンシップ(大学協定型) 目次

大阪府庁……31
舞鶴市役所……32
和歌山県庁……32
北陸電力株式会社……31

インターンシップＩＡ・ＩＢ 体験レポート

音楽学科

〔医療法人社団石鎚会〕

企業

インターンシップを通して得た新しい学び

学芸学部　音楽学科　３年次

実習期間 9月2日～9月13日
実習時間 8：00～17：00

今回10日間の実習で病院の中の色々な部署を巡った。どこもすごく印象に残っている。初日、法人の施設を案内していただいた。法人内には保育園、急性期病院、回復期病院、特別養護老人施設などがあり、ここから「仕事は、その場で完結しない」ということを感じた。各施設が連携していることで、地域の方々の将来までを支えられるような法人になっていることが分かった。

２日目、３日目は物流管理課での実習だった。この部署で１番感じたことは「縁の下の力持ち」ということだ。全ての施設の物品を管理し、毎日配送や手配を行う。患者様からは目に入る機会が少ないが、この部署が無ければ病院は円滑に運営できないと思った。３日目には、少し自分に余裕ができた。周りを見渡すと、午前中に持って行った物品が午後には無くなっていた。驚くと同時に配送したものがきちんと使われていることを嬉しく思った。４日目、５日目は、介護相談室での実習だった。ここは多職種連携の必要さが最も感じられた場所だった。１人の患者様に約７人の方が連携をとりサポートをしていた。私もいくつか参加させていただくことができた。患者様とコミュニケーションをとる時に笑ってくださる姿を見て、とても嬉しかった。やはり自分は誰かを支援する仕事に就きたいと自分の軸を再確認することができた。６日目、７日目は、医事課。ここでは受付業務はもちろん、普段なら絶対に経験できないようなことをたくさん経験した。特に驚いたのは、医事課が救急車の対応を救急の方と一緒にしていることだ。少しでも医師や看護師が、患者様を診ることができるようにサポートする姿が印象的だった。自分自身もやりがいを感じる場面だった。８日目は、メディカルクラーク課の実習。ここが自分の中では一番衝撃を受けた。すごいスピードで進んでいく診察の中でどんな物品を使ったか、どんな検査をするか、次の人の検査結果のコピー等、処理する情報量がとにかく多い。マルチタスクが苦手な私からすると尊敬でしかない。９日目は、総務部。私の中で総務、経理という言葉は何となく耳にするものの、想像がついていないところだった。ここで感じたことは、働いている人たちがよりよく働けるために働いているということだ。ここもまた、患者様と関わる人たちが少しでも、患者様に時間を割けるための工夫があった。最終日、健康管理センターでの業務に携わった。想像以上の忙しさでここでも連携の大切さが強く見えた。同じ建物だが階ごとにしっかり業務が分担されていることが、患者様をスムーズに案内できることに繋がっているのだ。

10日間の実習を経て、全ての部署に共通していると感じたことがある。それは誰かのために自分の利益等を気にせず動ける人たちが働いているということだ。私は、今回そこにすごく惹かれた。また、資格がなくても支援者になれる、それに気づくことができた本当に良い実習だったと思う。ここで働いている人たちみたいになりたいと強く思った。

メディア創造学科

〔株式会社新通〕

企業

インターンシップを通して

学芸学部　メディア創造学科　３年次

実習期間 8月16日～8月21日
実習時間 9：30～18：30

株式会社新通様で５日間にわたり、インターンシップをさせていただきました。この実習では、コミュニケーション能力・傾聴力を向上させること、躊躇せずに不得意なことに挑戦すること、そして広告業界について知ることの３つを目標としていました。先に述べた２つは、グループワークではなく各々での作業が多かったためあまり達成できなかったと感じていますが、３つ目については今回のインターンシップに参加したことでより理解が深まったと思っています。

講義を受けたり、様々な部署に所属されている社員の方々からお話を聞いたりイベント会場に行ったり職場を見学させていただくことで、広告業界やどのようなお仕事をされているか、社風について知ることができました。

インターンシップ中には映画の宣伝を考える課題と競艇場に若い女性の来場者を増やす企画考案の課題に取り組みましたが、プレゼンテーション能力及び言語化能力の低さを改めて痛感しました。準備期間があまりなく、資料作成が発表直前までかかり台本を作る時間が無く即興で話したところ、適切な言葉が見つけられなく言葉に詰まってしまうことが多々ありました。過緊張になりやすい性格のため、練習ができていないと上手く発表ができず、とても悔しい思いをしました。しかし、皆さんが連想ゲームのようにアイデアを広げたり、クリエイティブで且つ相手を納得させられる企画を提案されていて、いい刺激になりました。また、聞き手が受け取りやすい発表の仕方についても学ぶことが多く、勉強になりました。社員の方がおっしゃっていた「人に刺さるのは何気ない一言だったり画像だったりする」という言葉は、この時実感し納得したことでもあり、今後企画を考える際に、そのような何気ない要素を意識し、より多くの人に共感してもらえる内容を目指したいと思います。競艇場の企画を考えるにあたって、実際にボートレース住之江に行き、１日間会場運営のお手伝いもしました。この経験を通じて、自分の中にあったギャンブルやギャンブルを利用している人への偏見が一気に払拭されました。訪れた日は、土曜日で大きなイベントが開催されており、比較的若い人や家族連れも多く見られました。場内では子供たちも一緒になってレースの予想をしたり、選手の応援をしたりと楽しんでいる様子を見て、これまで関わりの無かった自分が全く知らない世界でも１度飛び込んでみないと実際のところは分からないものなのだなと強く感じました。

メディアという点で、私が学んでいることと広告には共通点があると思い今回は応募させていただいたのですが、参加できて良かったです。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

社会システム学科

〔岸和田市役所〕

官公庁

インターンシップで学んだこと

現代社会学部　社会システム学科　３年次

実習期間 8月29日～9月19日
実習時間 9：00～17：30

私は５日間にわたり岸和田市役所のインターンシップに参加しました。この５日間を通して、以前よりも市役所の業務内容について理解を深めることできたと感じています。

５日間で、広報広聴課と観光課の２つの課の仕事を体験させていただきました。この２つの課を選んだ理由は市役所で働く場合、大学で身に付けた観光の知識をどのように生かせるのかを知りたいと考えたからです。広報広聴課では、広報の誌面作成や広報誌を駅に設置するという業務を体験させていただきました。広報誌の作成においては、様々な課が行っている業務についての知識が必要であり、情報があいまいな場合やイベントについての認識など、他の課との連絡を取ることが多い印象でした。そのため幅広い知識や疑問をすぐに解消できる力が求められると思いました。広報の作成を担当する人数は、イメージしていたよりも少なかったのが印象的でした。少ない人数の中で、その月の特集担当の方は特集内容を考え、取材し、記事をレイアウトする必要があるため、幅広い事柄に興味関心を持っている人が向いているのだと感じました。またシティーセールス推進の一環として、岸和田市の公式インスタグラムの更新も体験させていただきました。お話を聞く中で、多くのイベントに参加したり、外に出たりする業務が多いということが分かりました。観光課では祭りの直後であったこともあり、主に次のイベントで配布する缶バッジのデザイン、作成、「だんじり」で行ったアンケートの集計を行いました。他にも桜の季節に行われるおしろ祭りの起案も行いました。岸和田市役所では、「だんじり」が大きなイベントで観光の目玉となっていることが分かりました。しかし、岸和田市には、「だんじり」だけではなく岸和田城をはじめとした魅力的な場所がたくさんあり、海も山も楽しめる街であることをもっと知ってもらうことが課題であると言っておられたのが印象的でした。「だんじり」があるからこそ他の魅力が注目されづらく、これが岸和田市の課題であるのだと分かりました。他にもweb会議にも出席させていただきました。市役所の予算は税金であり、限られた予算の中で、どのように知名度を上げたり、特産品を広めたりするのかを考えるのも観光課の役割なのだと学びました。広報広聴課も観光課も岸和田市の良いところをもっといろんな人に知ってほしいという思いは共通していました。その中のどの業務においても地域の人の協力が必要であり、信頼関係を築くコミュニケーション能力が一番大切であると感じました。市役所の業務は、すべてが市民の人々のために繋がっており、人とのコミュニケーションが必須であるのだと思いました。５日間の貴重な経験を活かし、就職活動だけでなくこれからの大学生活を送りたいと思います。

〔株式会社ノバレーゼ〕

企業

充実した５日間

現代社会学部　社会システム学科　３年次

実習期間 9月5日～9月15日
実習時間 10：00～18：00/10：00～15：00
15：00～20：00/10：00～20：00

私は、今回のインターンシップに参加するにあたり「社会に貢献できる人材になるために必要なことを見つける」ということを目標としました。また、それに対して自分に何が足りていないのかを明確にしたいと考えました。

この目標に対する自分なりの答えとして学んだことは、相手の潜在的な想いを見つけるための観察力・ヒアリング力です。婚礼見学をさせていただいた中で、雰囲気や内容など全く同じものは一つもありませんでした。当たり前のことではありますが、新郎新婦様によってどのような結婚式にしたいかは異なり、その要望をいかに引き出し、形にすることができるかが重要になります。しかし、新郎新婦様から言葉で伝えていただける要望だけが必ずしも全てであるとは限らず、お二人の表情や仕草などから、どのような想いを持っていらっしゃるのかを見逃さないようにすることが、プランナーの最大の役目であるということを学ばせていただきました。

また今回のインターンシップを通して「報告・連絡・相談の大切さ」を改めて痛感しました。結婚式に関しては、必ず組んでいた時間通りに進むわけではないため、常に今何が行われているのか、レストラン側の状況など、細かな情報を共有し合い連携されている姿が印象的でした。結婚式以外の場面では、お客様にお伝えする内容に関する相談や頼まれていた仕事に関する報告など、情報共有されている姿を数多く拝見しました。結婚式当日は多くのスタッフが関わることになりますが、当日までのプランを計画する段階では主に担当プランナーのみが関わることになります。一人で考えると、チームで仕事をするときよりも個人的な視点にとらわれやすいのではないかと思います。つまり、準備する段階の時には特に周りの人に相談などをし、意見をもらうことで、自分にはなかった発想が新郎新婦様にとってベストな結婚式につながることもあるため、自分の中だけで完結するのではなく、周りの人に報告・連絡・相談をすることが重要だと考えました。

そして初めに記した目標に加えて、主体的に行動することを意識しながらインターンシップに参加しましたが、振り返ってみると、全ての場面において主体的に行動することはできていなかったと思います。その要因として考えられることは、緊張しすぎていたことです。この点を改善するための自分なりの答えとして、何度も練習・確認をしたり、事前準備を徹底したりすることが重要であると感じました。

私が参加したインターンシップは５日間という短い時間ではありましたが、上記のように沢山のことを学ばせていただきました。インターンシップで学んだことを今後の学生生活や社会人になった際にも活かし、緊張するような大事な場面でも自分の力を最大限に発揮できる人になりたいと思います。そうすることで社会に貢献できる人に成長できるよう努めます。

〔岸和田市役所〕

官公庁　インターンシップを通して学んだこと

現代社会学部　社会システム学科　３年次

実習期間 8月19日～8月21日・9月26日～9月27日
実習時間 9：00～17：30

私はこのインターンシップ実習で５日間、岸和田市役所にお世話になりました。参加した理由としては、現時点で志望度の高い公務員、特に市役所職員の仕事に対して漠然としたイメージしか持てていなかったため、実際に業務を体験することで公務員の仕事に対するイメージを具体化し、公務員として働いている自分を想像することのできる良い機会となるのではないかと考えたためです。

今回は「広報広聴課」と「福祉政策課」の２つの課で実習を行いました。広報広聴課では市のSNSの更新、表敬訪問の取材、SNS用の写真・動画撮影のための取材、相談会の見学などに参加させていただきました。印象に残っているのは、実際に取材で自分が撮影した写真や動画をSNSに投稿するところまで経験したことです。帰宅後、市のSNSに投稿したものを見てみると、職員の方が投稿していたものと同じように掲載されており、市民の皆さんからの反応を感じることができ達成感がありました。福祉政策課では新卒の方向けの研修や料金支払いの同行、地域の福祉のイベントへの準備・参加などに参加させていただきました。新卒の方向けの研修では、私も受講生側となり認知症サポーター養成講座を受講しました。講座受講後には認知症サポーターの証であるオレンジリングをいただきました。岸和田市が認知症の方にとって安心して暮らせる市であるためにも、日頃から職員の方の努力が必要不可欠なのだと知ることができました。

今回のインターンシップ実習を通して、大きく分けて２つのことを学びました。１つ目はコミュニケーションがとても重要であるということです。市役所ということで市民の皆さんからの要望やイベントなど様々な業務があり臨機応変に対応していかなければなりません。１つの案件に対して１人で進めていくのではなく、その場にいる職員の方たちで相談しながら対応しているのが印象的でした。わからないことがあったらいつでも聞きやすい環境作りがされており、私にとってとても理想的な職場環境であると感じました。２つ目は公務員の仕事というのは想像していたよりも活動的であったということです。今回は５日間の実習でしたが、毎日外に出て取材やイベントに参加させていただきました。実習前は公務員の仕事は事務的なデスクワーク、もしくは窓口対応が多いのだろうと考えていましたが、実習後の今では全く逆のイメージになりました。仕事内容は部署によって変わりますが、外に出て仕事をすることも実は多いことを知れたのは私にとって大きな収穫となりました。事前訪問で人事部の方が「泥臭い仕事も多い」とおっしゃっていた理由もわかったような気がします。

このインターンシップを経験するまで、漠然とした印象だった社会人として働くということが現実的に考えられるようになり、とても良い経験になったと感じています。今回の経験を活かし、これからの就職活動に役立てていきたいと思います。

〔大阪トヨペット株式会社〕

企　業　インターンシップで学んだこと

現代社会学部　社会システム学科　３年次

実習期間 9月11日～9月16日
実習時間 9：20～18：00

私が今回インターンシップに参加した理由は、自分が就職したい業種の業界理解や企業について詳しく知りたい、社会人として必要なスキルや能力を知り、自身の成長に繋げたいという思いがあったからです。特にこのインターンシップＩＡ・ＩＢでは事前指導講義、事後指導講義があり、インターンシップに行く目的や心構え、社会人としてのマナー、言葉遣いなどは、訪問する前に、必要な知識や考え方を教えていただき、不安を解消し安心して訪問することができました。また、事後指導講義で振り返りをするといった手厚いサポートもあり、自分がこれから何をするべきか明確になりました。

車を購入することは、人生の中でも大きな買い物で、購入して終わりではなく、一人一人のお客様と深く長く関わることになります。そのような価値のある商品をどのように売り込んでいるのか、お客様とどのようなコミュニケーションを取るのかなどを知りたいと思い、自動車業界を志望し、大阪トヨペット株式会社に５日間の実習に参加させていただきました。実習では営業アシスタントの方々の店頭業務の把握や店頭にてお客様のお出迎え、受付、お茶出し、お見送りの体験、商談の見学の他にも、社員の皆様と話す機会が多く、なぜ自動車業界を選択したのかや就活の際のお話をたくさん聞かせていただきました。

特に営業アシスタントの方々と行動させていただくことが多く、展示されている車をお客様に説明したり、営業スタッフと同じように保険や納車の手続き、担当の営業スタッフが来るまでお客様と商談したり、コミュニケーションを取るなどの業務から社会人としてあるべき姿を学べました。

また、インターンシップを通じて、他の社員との連携の大切さとお客様との信頼関係の重要性を学びました。社員の皆様は、常にインカム又は内線で連絡を取られていて、お客様が来られたらインカムで担当の営業スタッフに連絡したり、エンジニアに連絡したりと色々な情報共有をし、自分の仕事もしながら効率よく連携されていました。また、他の社員の方に助言をもらうことで問題を解決したり、トラブルが起きてもすぐに連携できていて、協力し合う姿勢が非常に重要だと実感しました。

お客様と接する際には、常に誠実な対応を心がけ、相手のニーズをしっかりと理解し、特に迅速かつ丁寧な対応が信頼を築く上で欠かせない要素であると学びました。信頼関係が構築されることで、より深くお客様との信頼関係が生まれ、ビジネスの成功にも繋がると気が付きました。

今回のインターンシップで経験したことを活かし、今後の日々の生活を少しずつ変えていこうと考えています。

〔株式会社新通〕

企　業　働く上で大切なこと

現代社会学部　社会システム学科　３年次

実習期間 8月16日～8月21日
実習時間 9：30～18：30

私は今回の広告会社での実習を通して、様々な立場にある世の中の人々の気持ちを考えられることが、どれだけ大切なのかを学びました。実習内容のメインが２つの課題解決に取り組むというものでした。どちらも若者に興味を持ってもらえるイベントや広告を提案するもので、実習期間中には実際に現場に足を運んだり、動画を見るなど、感じたことや考えたことから提案を生み出し、最終的には社員の方々にプレゼンテーションを行いました。そこで他の実習生が社員の方に「もし自分の案が実現した時に、自分自身が本当に興味を持ち、足を運ぼうと思いますか？」と聞かれているのを見て、私自身もドキッとしました。この時、これが社会に出て仕事をするということなのだと強く感じました。大学の授業での課題解決への提案は、悪く言えば理想であり、それを実際に行うことまでは想像しなくてもよい部分がありますが、仕事は違います。様々なアイデアを出し合い、人々から共感を得ることでお金をもらっているのです。仕事というのは社会に大きな影響を与えることであり、働く上では様々な人の立場になって考え、共感を得られることが最も重要であるということです。実習中に出会う社員の方々が、皆さん口をそろえて「学生のうちから、沢山のことを知るために様々なことに首や足を突っ込み経験をして、知っていることを増やしてほしい」とおっしゃっていたことがとても印象に残りました。社員の方々は、普段から様々なことにアンテナを張り、常に情報を収集しているから多種多様なアイデアが浮かぶのだと思います。普段の何気ない日常から仕事に繋がっているのです。この言葉を聞いて、残り少ない学生生活を大切にしようと強く思い直すきっかけになったと同時に、どんなことも将来、何かにつながる経験や知識になると思ってやってみよう、挑戦してみようと思える自分へと変化しました。

このインターンシップＩＡへの参加は業種や会社のことだけでなく、働くとはどういうことなのか、また今何をすべきなのかも教えてくれる貴重な体験となり、参加して良かったと心から思います。

〔株式会社日本旅行〕

企　業　インターンシップを終えて

現代社会学部　社会システム学科　３年次

実習期間 8月16日～8月30日
実習時間 10：00～18：00

私は株式会社日本旅行のインターンシップに参加させていただきました。このインターンシップに参加しようと思った理由は、興味を持っている業界は複数あるものの、自身がむいているのかを特に重要視し、就職活動を進めていきたいと考えていたからです。旅行業界はどのような仕事をしているのか、これを理解し、自身にあてはめたときどうだろうかということをテーマとし、参加することを決めました。

実際に参加させていただいて、旅行業界の印象は大きく変わりました。はじめ旅行会社は、旅行に必要となる航空券やホテルの手配などを代行する職業だと考えていましたが、サービスを求め来店されるお客様にだけではなく、自らが学校や企業に赴き、営業をしに行くスタイルが多くみられました。何気なく行っていた修学旅行も複数の会社がプランを提案しその中から選ばれる、このような裏側があったということにはとても驚きました。ただやることが決まっていてそれを淡々とこなすようなイメージが前提にあったので、自身の提案や調査した結果に基づいたプランを提供できるという点は自信を持っておすすめでき、そのプレゼンテーションが通ったときのやりがいも大きく、とても興味深い仕事だと感じました。

体験見学させていただいた業務としては、学校等へのプレゼンテーション、営業の同行、航空券や鉄道、ホテルの手配の仕方、旅行行程表の作成、委託業務を行う事務所の業務など様々でしたが、それらの業務において求められている力は多くに共通していたように思います。まず一つ目に、コミュニケーション能力です。営業職なのでコミュニケーション能力が必要になるとは思っていたのですが、ただ商品の魅力を伝えればいいのではなく、普段からお客様とコミュニケーションをとり、繋がりを持ち続けていくことや普段の自身の態度に気をつけながら接することがすごく大切なのではと感じました。二つ目に、チームワーク力です。学校、企業に赴く営業部員が獲得してきた契約を手配部門の方々が受け取りそれぞれ手配する流れがあり、一つの行程が作られます。実際に会社にいても、営業部の方々が手配部の方々に何か確認に行っていたり、何度も部内でも打ち合わせをする場面を目にすることがありました。営業と手配でそれぞれ専門性を持っていてわかれていたとしても、それが乖離しているわけではなく協力体制が取れている、また何か困ったり行き詰まったりしたときに身近に相談しやすい存在がいる職場のように感じました。社内も和気あいあいとコミュニケーションがとられていて、私自身もいい緊張感の中で仕事体験ができたと思います。今回のインターンシップで旅行業界について学ぶというテーマは達成し、その良さもたくさん知ることができました。これからもこの経験を活かし、就職活動を進めていきたいです。

〔株式会社新通〕

企業

インターンシップを通して学んだこと

現代社会学部　社会システム学科　３年次

実習期間 8月16日～8月21日
実習時間 9：30～18：30

私が今回インターンシップへの参加を決めた理由は、就職活動を進めていく上で自分が何を大切にしたいのか、どのような働き方をしたいのかを知りたかったからです。そのため、企業や業界・仕事内容についての理解だけでなく、社員として働くとはどういうことか考えを深めることも目標としていました。

５日間のインターンシップを通して学んだことは、大きく分けて３つあります。

１つ目は、企画することの難しさ・楽しさです。今までなんとなく、発想や企画をする人は自分とは違って才能があると思っていました。社員の方が企画を考える時はその期間ずっとそのことを考えていて、何か案が浮かんだら他人にぶつけてみてブレストすると仰っていたのを聞いて、決して企画は才能がある人が考えたから良いのではなく、時間をかけてじっくり考えるからこそ良いものになるのだということを当たり前ですが実感しました。良い企画を考えるのは難しいですが、簡単にできないからこそ、楽しい瞬間が生まれるのではないかと思いました。

２つ目は、やりがいを感じることの大切さです。実習では、綿密なプログラムを組んでいただき、数多くの部署の方のお話を聞くことができました。どの方もいきいきと話をされていて、それぞれの方にやりがいや楽しさを感じるタイミングがありましたが、やはり広告やイベントで自分の発想が形になった時にやりがいを感じる方が多いように思いました。私自身も今回、企画を考えることの難しさを痛感し、自分の発想力の無さに落ち込むこともありましたが、発想を社員の方に褒めていただいた時は、頑張って考えて良かったと思うことができました。仕事はもちろん大変なことも多いですが、やりがいを感じることができれば、何とか続けていけるのかと考えました。

３つ目は、職場の人・雰囲気の重要性です。社員の皆様が働く会社を決めた理由には必ずといっていいほど「人の良さ」があり、私自身もそれを実習期間で実感しました。どの方も親切で優しく、質問のしやすい雰囲気で、居心地の悪さを感じることはありませんでした。やはり長く働ける会社を選ぶためには、人や環境の良さをみることが大切だと思いました。

お話を聞くだけでなく、自分で企画を考えたりイベントに参加させていただいたりしたため、調べるだけでは得られない数多くの学びがありました。近年は、仕事とプライベートを全く別物として分けてしまう人も多いですが、今回のインターンシップで普段の生活や趣味を通して経験したことが生きる仕事の方が私は楽しめると感じました。５日間で働き方や生き方への考えが深まったので、人との接し方や話し方などの基本的な反省点も含めて、今回の経験を今後の就職活動に活かしていきたいと思います。

〔高見株式会社（TAKAMI BRIDAL）〕

企業

お客様に心地よく過ごしていただくために

現代社会学部　社会システム学科　３年次

実習期間 9月６日～9月16日
実習時間 10：00～18：00

「ありがとうございました。」退店されたお客様にそう言った後、しばらくお辞儀をし、お客様の姿が見えなくなるまで見守っていらっしゃいました。今回の実習でお客様に心地よく過ごしていただくための細やかな心遣いを沢山見せていただきました。最初の同行で学んだことは、確認作業の大切さです。白無垢を試着されていた新婦様は、その真っ白な生地の色を気に入っていらっしゃいました。私は、気に入ったものがあってよかった程度にしか思っていなかったのですが、スタイリストの方を見ると、新婦様が気に入られている衣装が、挙式日に同じ色のまま着ていただけるか確認されていました。話を伺うと、挙式日までに時間が空いてしまうと、色が変わってしまうことがあるとのことでした。デザインではなく、色が気に入っていたことを聞き逃さず、それを受けて、挙式当日の在庫状況だけではなく、その色の状態のまま用意できるかまで確認されていたことに衝撃を受けました。他にも、確認作業の大切さを学ぶ機会が沢山ありました。挙式日までに痩せる予定があるかどうかをおたずねしたり、スムーズに試着ができるように来店前に身長や体重を確認し、用意しておいたりと、書ききれないほどたくさんの確認作業がありました。最終日には、店頭に出しているサンプルを販売するサンプルセールの期間に、接客の同行をさせていただきました。この接客で印象に残った技術は、洞察力とお客様を疲れさせない会話術です。短時間で、お客様との会話の内容や反応から、好みや似合いそうなものを感じ取り、沢山あるドレスの中からおすすめのものを選出し、試着していただいていました。私は服を買うとき、考える作業が多くとても疲れてしまいます。スタイリストの方は、頭の中で話す順番も考えられているそうで、ドレスの説明も一つ一つとても簡潔でわかりやすく、できるだけお客様の悩む時間を短縮されているように感じ、お客様も楽しそうに選んでいらっしゃいました。他のスタイリストの方も、お客様の腕をさする動作を見てエアコンの温度を上げたり、前撮りの写真や挙式会場の雰囲気を見て、好みや場に合わせたドレスを選ばれていました。

私はこの５日間、皆様のお仕事をお手伝いさせていただいた中で、確認、洞察力、コミュニケーション能力の重要さを主に学びました。そして沢山のおもてなしの技術を見せていただきましたが、どの行動もお客様に心地よく過ごしていただくという想いが軸になっているように感じました。私もその言葉を頭に置きながら、自分がスタイリストだったらどんな言葉がけをし、行動するか考えながら実習に臨んでいました。そうしたことで、より細やかな慮った行動に気づくことができ、さらに実際にお客様にお声がけすることもできました。そして、皆様から確認作業の大切さを学んだので、毎日帰ってからメモの内容を振り返り、重要な点をまとめ、目標を立てるようにしました。共有する大切さは、アルバイト先で、お客様が楽しくお買い物ができるよう、ミスを減らすことに繋げていこうと思っております。

〔株式会社JTB　マレーシア支店〕

企業

インターンシップでの学び

現代社会学部　社会システム学科　３年次

実習期間 9月9日～9月13日
実習時間 9：00～18：00

私は、①小さい頃から旅行業界に就きたいという夢があったこと、②多文化社会の中でどのように様々な人種や宗教を持つ人々が共存しているのかという学びとグローバルな視点を得たいと考え、このインターンシップに参加した。

参加を通して学んだことは、主に以下の２点である。

１点目は、旅行業において様々な業界や人々と繋がりが重要であることだ。旅行業は、単に自社と観光客だけでなく、ホテル・レストラン・交通機関・自治体等の他業界との連携がツアー造成の為に必要不可欠であることを実感した。現地の飲食店様とのミーティングに同行させてもらった際、ターゲットやコスト、食事時間、収容人数など細かい部分まで打ち合わせを行い、顧客視点からの具体的な話し合いが進められていた。多様な業界の人々と明確な情報共有で、密に連携を図る重要性を学んだ。また、社員の方は、社会のトレンドや地元のレストランなど観光スポットとなり得ることに常にアンテナを張ってインスタグラム等で情報収集されていると伺った。このような小さな努力が社会を巻き込む大きな影響力のあるツアーの提供へと繋がっていくのだと考えた。このことから、旅行業界は常に変化が伴う時代の中で変わりゆくトレンドと社会の需要を把握し続け、それを旅という形で各々に還元する役割を果たすことを学んだ。

２点目は、マレーシアで異なる宗教や人種の人々が共存する多国籍社会が実現可能なのは、「他者を尊重する思いやりの心」があるからだと学んだ。現地の方と英語でお話しした際、私の拙い英語でもしっかりと向き合い、コミュニケーションに対して積極的な姿勢を持った方々が多いと感じた。オフィス内では主に英語、日本語、中国語、マレー語の４ヶ国語が飛び交っており、最初は戸惑ったが、周囲の方々はこの環境に慣れている様子だった。この国では、違うことが当たり前で、それらを尊重し受け入れようとする前向きな国民性があった。また、イスラム教の方はお酒や豚肉を口にできないことから、オフィス内で配るお菓子も原材料を入念に確認するなどの配慮があり、日本との違いを肌で感じた。同じように、ツアーにおいても、参加者のアレルギーや宗教上の理由で食べられない物の対応等細かい配慮があって実施されていることを学んだ。これらは日本では見ることができない風景で、とても新鮮で刺激的だった。母国で「当たり前」ではないことがこの国では「当たり前」であった。他者を尊重する心が国民性に反映されているからこそ様々な人々が共存できる社会の構築へと繋がっていることを学んだ。

今回のインターンシップは大変有意義な経験となった。今までは日本基準で物事を見ることが多かったが、それらは世界では通用しないこともあるということを学んだ。この学びを糧に、今後はよりグローバルな土俵で活躍できる人材に成長し、社会に貢献していきたい。

〔株式会社関西マツダ〕

企業

社会に出て大切なこと

現代社会学部　社会システム学科　３年次

実習期間 9月4日～9月8日
実習時間 10：00～17：45

今回のインターンシップで、自動車業界の販売業務の体験をさせていただきました。ディーラーは、車の販売をするというイメージしかありませんでしたが、車検の見積もりやどのようにすればお客様に快適に車に乗っていただけるかなど、様々なことを考える力が業務に求められるということを知りました。インターンシップに参加した目的として、社会人の先輩方がどのように働いておられるのかを実際に見て体験すること、車業界の理解を深めることや、お客様とのコミュニケーションのとり方を体感するということを目標にしていました。このインターンシップの期間中には、新規のお客様へのヒアリングに同行したり、お客様への接茶を行ったりしました。実際にヒアリングを間近で見て、どのようにお客様とコミュニケーションをとって、車に快適に乗ってもらえるか、いろいろな情報を聞き出しながらお客様に寄り添った接客をしているところが印象に残りました。コミュニケーションは、お客様との信頼関係を築く大切なことであり、顧客との対話を通じて、相手のニーズを理解し、適切な情報を提供する力を身につけることが自分の課題だと思いました。特に、聞き手としてのスキルが重要であることを認識しました。その他にも、株式会社関西マツダについても詳しく知ることができました。株式会社関西マツダの理念として、地元の方々に寄り添い、訪れたくなる店舗づくりを徹底していると感じました。特に、店舗以外でも関西マツダのイベントを実施し、お客様の家族など、子どもも参加できるイベントづくりやレースカーのイベントがあり、社員からお客様まで全員が楽しめるイベントがたくさんあり、愛される企業づくりを行っていることを知ることができました。今回のインターンシップは、ディーラー業務に対する理解を深める貴重な機会となりました。将来的には、販売だけでなくマーケティングや経営戦略にも関与し、業界全体を見渡せるようなキャリアを築きたいと考えています。また、自動車ディーラーの業務の魅力と、同僚との連携を通じて、チームとしての目標達成の重要性を学びました。異なる役割を持つメンバーが協力し合うことが、より良い成果につながることを実感しました。社会で働く上では、チームワークと社員同士のコミュニケーション、お客様とのコミュニケーションが重要であることを再確認する機会になりました。今後も業界について学び、コミュニケーション力などを磨いていきたいと思いました。この体験を今後のキャリアに生かしていきたいです。貴重な体験を提供してくださった株式会社関西マツダと社員の皆様、ありがとうございました。

〔日本航空株式会社　バンコク支店〕

企業

タイでのインターンシップを終えて

現代社会学部　社会システム学科　３年次

実習期間 9月2日～9月6日
実習時間 9：00～17：00

日本航空株式会社バンコク支店で、５日間にわたり、インターンシップに参加させていただきました。

インターンシップに参加する前は、業務をやり遂げることが出来るのかという不安と異国の地ということもあり、とても緊張していました。しかし、実際にインターンシップに参加すると、社員の皆様が温かく迎えてくださり、楽しんで働かれている姿を見て緊張がほぐれ、充実した５日間を送ることが出来ました。

このインターンシップでは、各セクションの業務説明をはじめ、現地の旅行会社へ訪問、出発便・到着便のハンドリング見学・体験など普段経験することの出来ないことを沢山体験することが出来ました。特に印象に残っているのは、出発便・到着便のハンドリング見学・体験です。カウンターや搭乗ゲートでの業務や乗り継ぎをする方の誘導、整備セクション・フライトメンバーの打ち合わせであるブリーフィングの見学など様々な業務を行いました。これらの業務体験を通して、普段私たちがよく目にする客室乗務員やグランドスタッフの方々だけでなく、お客様から直接見えない整備セクションの方々など社員皆様が一丸となって、お客様に安心、快適さを提供していることを直接感じることが出来ました。企業として利益を得ることも大切ですが、それ以上にお客様に価値を与えることを大切にしておられることが分かりました。

また、働くにおいて問題解決能力が重要であることを学びました。最終日にはプレゼンテーションがあり、「日本航空株式会社様への提言」を発表させていただきました。日本航空株式会社様が抱えている課題やタイと日本間の観光客数における課題などを見つけ、新しい取り組みを考案するという内容でした。このプレゼンテーションを通して、問題解決能力が重要であることを学ぶことが出来、この能力が自分に足りていないと分かったため、とても良い機会となりました。問題解決能力を身に付けることによって、業務の質や効率が向上するだけではなく、既存の枠組みにとらわれず多様な価値観へ柔軟に対応出来るようになると思いました。インターンシップはこの問題解決能力を身に付けていく良い機会ですので、これからも様々な企業のインターンシップに参加していきたいと思います。また、日常生活においても、今の状況の「一歩先」を考え、問題解決能力を向上させていきたいです。

インターンシップを通して、実際に体験してみなければ学ぶことのできない貴重な経験をすることが出来ました。また、日本とは異なるタイの文化にも触れることが出来、自分自身の視野も広がりました。自然と私もお客様に価値や笑顔を与えることの出来るような仕事に就きたい、空港で働きたいと思うようになりました。得られた学びをしっかりと自分のものとして吸収し、これからの就職活動に活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、日本航空株式会社バンコク支店の皆様、５日間貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

〔香芝市役所〕

官公庁

インターンシップを通して

現代社会学部　社会システム学科　３年次

実習期間 8月19日～8月23日
実習時間 8：30～17：15

私は、香芝市役所に５日間のインターンシップでお世話になりました。実習中、公務員の仕事理解と自身の自主性の向上を目標として取り組んでいました。その中で、実際に現場で率先して住民の方のために働いておられる姿を目の当たりにし、公務員として働くことの具体的な像を知ることが出来ました。また、事務的な作業も多くありましたが、現場に実際に赴いて、現場の声を聞いたり、自分自身の考えや市役所としての立場を伝えたりしているところを見学することが出来ました。私自身の意見も聞いてくださり、私自身が感じたこと、考えたことを伝え、自主性を養うことが出来、とても良い経験になりました。

実習では、人事課、児童福祉課、社会福祉課、介護福祉課、保育課の５つの部署で業務をさせていただきました。今回の実習を通して、同じ市役所であっても業務内容は課によって大きく異なり、必要とされるスキルも必然的に変わってくることを学びました。話を聞く中で、常に一つの部署で働き続けるのではなく、部署異動があり、今まで行っていた業務内容とは全く異なる業務を行わなければならなくなり、一から業務を覚え直していく必要があることを知りました。そこから、臨機応変に対応していくことの重要性を学びました。加えて、部署異動が行われて新しい課に移った際に、不明点があればこれまでその課にいた人に質問する必要があると考え、コミュニケーション能力が重要になってくるのではないかと考えました。また、これまでその課にいた人が堅い空気をつくっていると質問をしにくくなってしまうので、質問をしやすい空気づくりがコミュニケーション能力と同様に大切になってくると感じました。

今回の実習で、健康診断の受付を行いました。作業自体はExcelを使うもので難しいものではありませんでした。しかし、いくつかの作業は臨機応変に対応する必要が出てくるものもありました。操作をしている中で不具合が起こった際に、早く解決して次に並んでいる人の対応をしなければならないと思いパニックになってしまったため、職員の方に上手く報告出来ないことが数回起こってしまいました。このことから、周囲の状況を正しく理解し、言葉にして周囲に伝える能力が欠如しているということに気付きました。これからは状況を瞬時に理解・判断し、冷静に言語化が出来るようにしていきたいと考えました。また、職員の方に作業を手伝っていただいた際に、Excelの計算方法などを覚えておけばこれから役立つことを教えていただいたので、活用出来るようにしていきたいと思います。

今回の実習で、視野を広く持ち、自主的に行動することが出来るようになったと思いました。また、公務員に対しての不安や不明点も質問したり、話してくださる中で解消することが出来ました。この経験をもとに、これからの人生を有意義なものにしていきたいと思います。

〔京田辺市役所〕

官公庁

インターンシップを通して得たもの

現代社会学部　社会システム学科　３年次

実習期間 9月9日～9月20日
実習時間 8：00～17：15

私は将来、地方公務員になりたいと考えている。インターンシップを通して、公務員の仕事がどういったものなのか学びたいと思い参加した。

インターンシップに参加するにあたり、三つの自己達成目標を設定した。一つ目は、インターンシップで自分の希望業種である公務員の業務を体験し、自分の将来像を明確化することである。二つ目は、事前指導で学んだ職場マナーを実践し、社会人としての心構えを学ぶことである。三つ目は、京田辺市役所デジタル情報課で行政のDX化がどのように推進されているかを学ぶことである。

一つ目の目標を達成するために、職員の方のお話は全てメモを取り、分からないことはすぐに質問することを心がけた。他の部署の職員の方ともお話しする機会をいただき、公務員の働き方や公務員試験についてのお話もお聞きすることができた。二つ目の目標を達成するために、実習前後の挨拶に力を入れた。まず課長から、課の職員の方一人ひとりに対して丁寧に挨拶をさせていただいた。また、名刺のいただき方やお辞儀の角度などは、事前指導で学んだことを再度確認してから正しい方法で実践した。三つ目の目標を達成するために、事前打ち合わせでいただいていた「京田辺市DX推進計画」に目を通してから実習に臨んだ。実習ではオンラインフォーム作成やAIチャットボットの管理を通して、行政におけるDX化の重要性を学んだ。

反省点として、積極性とコミュニケーション力、プレゼンテーション能力の不足を強く感じた。実習中は、任された仕事を丁寧に早く終わらせることに集中しすぎてしまい、結果的に、自分で仕事を見つけるなどの積極性を発揮することができなかった。また、職場には様々な年代の方がいらっしゃったが、自分は普段違う年代の方とお話する機会がほとんど無く、うまくコミュニケーションをとることができなかった。作成したオンラインフォームを担当部署の方にプレゼンテーションする際、うまく説明することができず、担当部署の方に対して申し訳ない思いになった。

これらの反省点から、今後の学生生活では二つのことを実践しようと思う。まず積極性とコミュニケーション力を伸ばすため、同年代以外の方とも話す機会を増やしたいと思う。私は大学でボランティアサークルとまちづくり委員会に所属しているので、それらの活動で他の年代の方と交流できる機会があれば必ず参加したい。加えて、プレゼンテーション力を伸ばすため、その経験を積みたいと考える。ゼミや授業でプレゼンテーションを行う機会があるので、その際は聞く人にとって分かりやすい伝え方ができるように心がけたいと思う。

このインターンシップを通して、得たことを活かして、必ず理想の地方公務員になれるよう精進したいと思う。

〔株式会社きんでん　京都支店〕

企業

インターンシップでの新たな学び

現代社会学部　社会システム学科　３年次

実習期間 9月3日～9月6日、9月9日～9月12日
実習時間 8：30～17：30

私は今回のインターンシップＩＡ・ＩＢで、株式会社きんでん京都支店での実習に８日間参加させていただきました。株式会社きんでんのインターンシップを通して、実際にインフラ業界で働いている社員の方々とお話しできる機会をいただき、事務職の仕事内容や社会人０年目といわれるインターンシップで社会人としての責任感・ビジネスマナーを学び、今後の大学生活・就職活動に影響を与えたいと思いました。８日間のインターンシップは、４日間電力部・４日間営業部の部署で実習を行いました。この実習を通して、大きな学びを得ることが出来ました。

その学びとは、企業理念や社是を大事にし、それらを心掛けて仕事に取り組む重要性です。電力部では、他の部署よりも配管工事などの現場に行かれる社員の方が多くおり、朝礼の際に企業理念や社是はもちろん、安全への認識の再確認などを毎日行っていました。実際に営業所に訪問させていただいたり、配管工事などの現場を見学させていただく機会を与えてもらうことがあり、私がインターンシップに参加した京都支店はもちろん、営業所や現場でもその安全性を重視した行動をとっていると感じました。会社規模はもちろん、そういった根本の意識が業界トップクラスのシェアを誇っているのではないかと思うようになりました。

そして上記の学び以外にも、今回のインターンシップで学んだことがあります。それは、８日間のインターンシップを経験していなければ分からなかった改善点です。私は、指示を受けた物事に対して言われた通りに行わなければならないと思い、作業をしていました。しかし、担当の方に「凄く良く出来ているが、私だったら他の人が見た時により情報が伝わりやすいようにする」とフィードバックをいただき、この作成した資料や書類などを他の方が見た時にどう捉えるか、より情報を見やすく伝えやすくするにはどうするかなどを考えず行動していたと気付かされました。そのため、これから何か資料や書類を作成することが残りの大学生活であったらそれらを意識して作成したいと思いました。

今回のインターンシップで、多くの社員の方が社員の１人かのように大学生の私を温かく迎えてくださり、たくさんのことを学ばせていただいたり、実際働いている人でしか感じられない価値観を教えていただきました。この８日間は間違いなく、私の大学生活の中で今までにない多くの学びと自己成長のきっかけを与えてくれました。今回のインターンシップで得た学びなどを今後の大学生活や就職活動に活かして、発揮していきたいと思いました。最後になりましたが、このような貴重な経験をさせてくだった株式会社きんでん京都支店の皆様、機会を与えてくださったキャリア支援部の方々、本当にありがとうございました。

〔一般社団法人大阪教育文化振興財団　キッズプラザ大阪〕

企業

インターンシップを通して学んだこと

現代社会学部　社会システム学科　２年次

実習期間 8月10日～8月19日
実習時間 9：00～17：15

キッズプラザ大阪の夏休み限定企画展「忍者大作戦」にスタッフとして８日間従事しました。この企画展では、子どもたちが遊びながら忍者について学ぶことを目的としており、私の主な役割は体験コーナーで子どもたちを安全に誘導し、そして楽しめるようサポートすること、また、保護者の方々への案内や質問対応を行うことでした。

インターンシップを通じて、二つの大きな学びを得ることができました。

まず、様々な人との接し方を学びました。普段私が接するのは同じ年齢層や共通の興味を持つ人々が多いため、インターンシップの現場で様々な年代や国籍の方々と関わることは、私にとって新鮮な体験でした。最初は緊張して消極的になりがちでしたが、他の職員やボランティアの方々の対応を見習いながら、自分なりの接客方法を模索していきました。最終的には、積極的に来館者に話しかけることができるようになりました。さらに、海外からの来館者が多かったため、言語の違いに直面する場面がありました。普段から外国語を学んでいますが、このインターンシップで実際に学んだ言語を使うよい機会となりました。しかし、時には言語が通じない場合もあり、そのような時には、ジェスチャーを使って意思疎通を図りました。これにより、言語だけに頼らず、非言語的なコミュニケーションの重要性も学びました。積極的に様々な人々と交流することで、言語の壁を越えたコミュニケーションが可能であることを体感し、この経験は今後の人間関係においても非常に役立つものとなりました。

次に、職場の環境やチームワークの大切さについても学びました。実習先の職員の方々はとても親切で、私が不安を感じることなく業務に取り組めるよう、温かくサポートしてくださいました。職員の方の丁寧な指導のおかげで、職場での信頼関係の重要性を実感しました。また、職場の雰囲気はとても協力的で、チームワークの大切さを理解しました。特に何か問題が起きた際には、周りの方がすぐに助け合いながら対応していたことが印象的でした。このようなサポート体制が整っている職場環境に身を置いたことで、働きやすさやチームの協力が、個人のパフォーマンスにも大きく影響を与えることを学びました。そして実際に現場で働くことによって、職場の雰囲気や社員同士の関係性を肌で感じることができました。この経験から将来就職先を選ぶ際には、実際にその職場に足を運び、そこで働く人々との相性や雰囲気を確認することが重要だと思いました。

このインターンシップを通して、コミュニケーション能力や接客スキルだけでなく、働く環境の重要性を再確認しました。多様な人々との交流や、実際の職場で働いた経験を通じて得た学びは私自身の成長を促し、今後の学生生活や将来のキャリアにおいても大いに役立つものと感じました。この貴重な学びを今後の生活や進路選択に生かしていきたいと考えています。

〔一般財団法人大阪教育文化振興財団　キッズプラザ大阪〕

企業

インターンシップで学んだこと

現代社会学部　社会システム学科　２年次

実習期間 8月10日～8月19日
実習時間 9：15～17：15

今回のインターンシップで自身の目標としていたことは、「笑顔」を心がけること、そして周りをよく見て積極的に行動するということです。その２点を意識しながら今回の実習に臨み、多くのことを学びました。ここでは主に２点あげたいと思います。

１点目は、コミュニケーション力の必要性、重要性です。職員の方々やボランティアの方との交流はもちろん、メインとなる子どもたち、その保護者とも話す機会は多かったように感じました。笑顔で話すということには変わりありませんが、話す言葉や話し方を相手によって使い分けることがはじめは難しく、言葉につまってしまうこともありました。「自分は相手にどう伝えたいのか」ということを意識しながら話すことで、次第にスムーズに話せるようになりました。普段意識することが少なかったコミュニケーション力を意識できたことは、大きな経験になったと思います。特に職員の方々やボランティアの方、他大学の実習生と過ごす時間は多く、分からないことがあり尋ねた際にも優しく教えていただいたり、お互い困ったことがあってもすぐ助け合える関係性は普段の生活においても重要だと感じました。

２点目は、積極的に発言、行動することです。はじめておこなう業務ということもあり、職員の方々をはじめ、みなさんに丁寧に教えてくださいましたが、積極的に行動することに付随して自分の判断ひとつで、実習先の印象がかわってしまう可能性もあると考えると、責任の重さを感じました。また、日々の業務を周囲の状況を見ながら積極的におこなうことも大事ですが、「子どもたちがどうしたら楽しんでくれるか？」という点に配慮することも重要だと考えました。遊具や設備の安全性は事前に確認していただいていますが、日々使ううちに修繕しなければならない箇所がでてくることもありました。最初は職員の方々やボランティアの方の意見や指示を受けてから修繕や改善をすることが多かったのですが、業務中に自分なりに改善できる点を考え、積極的に実践することができるようになりました。その結果、子どもたちが楽しく安全に遊んでくれている姿を見ることができて嬉しかったです。

このインターンシップを通して、自身の目標として設定していた「笑顔」を心がけることは簡単ではなく、しっかり業務をおこなうことができるという前提があることを改めて実感しました。また、周りを見て積極的に行動する際にも、ひとつの考え方に固執するのではなく、様々な意見を取り入れていくべきだと思いました。そのようなことを改めて気づくことができた今回の経験は今後も大切にしていきたいです。

〔富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社〕

企業

インターンシップを通して

現代社会学部　社会システム学科　２年次

実習期間 8月19日～8月30日
実習時間 9：30～16：30

私は今回、「企業の理解を深める」「学生生活の間にどのようなスキルを身につけておかなければならないかを知る」を目標にインターンシップに参加しました。

課題解決提案プログラムでグループディスカッションやプレゼンテーションを行い、自分自身の強みや弱みを発見することができました。私の強みは周りを観察しサポートできること、新たなアイデアを出すことができること、一方で弱みは人前で話す時に緊張し、言葉が詰まってしまうこと、周りの出方を見てしまい出足が遅れることでした。

しかし、インターンシップ期間中、毎朝３分間スピーチを行い、ガクチカや十年後の自分など、ほかのインターンシップ生や担当者の方に自分自身のことを話すことで少しずつ弱みが改善されました。最初は緊張して周りのインターンシップ生の話を聞いてからでしたが、最終日には自分から手を挙げて話すことができるようになりました。ここで得たものを糧に、今後の授業でも積極的に意見を出したり、プレゼンテーションで堂々と話したりできるようになりたいです。

実習期間中、印象に残っていることは、営業部長の「コミュニケーション能力とは相互理解のことである」というお話です。お客様に寄り添い、誰が聞いても分かりやすい提案を行うことで、自分の認識と相手の認識を一致させることがいかに大切かということを実感しました。

また、顕在化ニーズより潜在化ニーズが大切だという話も印象に残っています。目に見えない課題を理解する創造力や考察力がなければ、お客様に寄り添った提案はできないということも身をもって体感しました。

課題解決提案では、ヒアリング前に訪問する会社について調べたのですが、実際に訪問しないとわからないことがたくさんあり、事前準備の難しさを実感するとともにヒアリングの重要性を知ることができました。

最終日に行った成果報告プレゼンテーションのフィードバックで、自分の弱みだと思っていた消極的な部分を冷静沈着であるという強みでもあるとおっしゃっていただいて自信につながりました。

最初は正直、インターンシップも初めてで右も左も分からない状態でしたが、他のインターンシップ生との関わりの中で就職活動の軸や状況を聞き、知識を深めることができました。

９日間という短い期間でしたが、このインターンシップで得た貴重な経験を活かして、将来社会で活躍することができる人材になりたいです。

〔株式会社内田洋行〕

企業

株式会社内田洋行のインターンシップを経て

現代社会学部　社会システム学科　２年次

実習期間 8月26日～8月30日
実習時間 9：00～17：15

５日間の実習のテーマは、「内田洋行の社員として、自身の通っている大学がもっと魅力的な大学になるための提案を行う」というものであった。会社紹介や事業部紹介を通して、内田洋行についての理解を深め、グループワークを通してブレーンストーミングやＫＪ法を用いたアイデアの出し方を学んだ。これらの活動を通して得たことを参考にして、プレゼンテーションを作成し、最終日には社員の方々と大学の関係者を招いた成果発表会が行われた。

今回の実習において２つの自己達成目標を設定した。１つ目は「インターンシップを通して働くということを身近に感じられるようになること」である。会社紹介を通して、内田洋行とはどのような会社であり、どのような理念を持った人が働いているのかということを学んだ。また、どのような軸をもって就職活動を行っていたのか、入社後にどのようなことで苦労をしたのか、といったことを若手社員座談会での質問から知ることができた。これらの活動を通して働くことへの理解が深まり、数年後自分が働いている姿が想像できるようになった。２つ目は「グループワークやプレゼンテーションに対する苦手意識をなくすこと」である。グループワークでは、ブレーンストーミングという手法を用いてディスカッションを行った。私は以前から、頭の中で考えていることを言語化することに時間がかかり発言の機会を逃してしまうことがあったのだが、今回のワークでは、積極的に自分の意見を伝えることができた。臆することなく発言できたのは、「批判をせずにお互いの意見を尊重する」というルールがあったおかげであると考えている。自分の考えを紙に書き出して可視化することによって、より理解が深まることを知った。話し合いによって新たな意見が生まれたり、関連性が出てきたりすることの面白さを感じ、楽しんでグループワークを行うことができた。また、プレゼンテーション講習を通して、場面に応じた話し方や文章構成の方法を学び、成果発表会で実践することができた。入念な準備と他者の協力のおかげで自信をもってプレゼンテーションに挑むことができた。私自身、最大限の力を発揮できたと考えているが、他の実習生の方や社員の方からも良い評価をいただけたことで、より自信がついた。これらの成功体験により、グループワークやプレゼンテーションに対する苦手意識を和らげることができた。

実習を通して、「自分の心に余裕が無い時に一人で悩んでしまうこと」が自分の課題であると気づいた。成果発表会に向けて自身の大学の課題の本質を見つけるにあたり、自分の考えを上手く言語化できないもどかしさを一人で抱え込んでしまった。その後、社員の方や他の実習生の方と話すことによって新たな視点を得たり、自分の考えを整理したりすることができたため、行き詰った時こそ他者と交流することが重要であるということを学んだ。これからの学生生活では「上手く人に頼ること」を意識して取り組みたいと考えている。

現代こども学科

〔伊賀市役所〕

官公庁　インターンシップを通して学んだこと

現代社会学部　現代こども学科　３年次

実習期間 8月19日～8月23日
実習時間 9：00～17：00

私は５日間、伊賀市役所のインターンシップに参加しました。実習では、健康福祉部こども未来課と産業振興部観光戦略課の２つの課に所属し、それぞれの部署において様々な業務の体験や見学を行いました。インターンシップに参加する前は、市役所の仕事とは、窓口対応や事務作業が主な業務内容であると考えていましたが、インターンシップを通して、市役所では、部署ごとに多岐にわたる業務を行い、市民生活を第一線で支えていることを学ぶことができました。こども未来課では、「子ども第三の居場所」の視察に同行させていただき、家庭環境や経済的理由など様々な事情により、家で過ごすことが困難な子どもたちへの支援について具体的に学ぶことができました。これからも安心して子どもを産み、育てることができる伊賀市であり続けるために、子どもを取り巻く環境に向き合い、支援していくことが重要であると学び、これからの伊賀市に何が必要であるのかを大学生活の学びの中で考察していきたいと思います。観光戦略課では、イベントの企画や情報発信に関わる業務についてお話を聴かせていただき、イベントを行う際には、イベントごとの目的を明確にして、具体的な取り組みを行い、観光客を誘致することが重要であると学びました。観光戦略課での実習を行い、伊賀市の観光に関して、さらに知識を深めていきたいという思いを持つことができました。

５日間の実習を通して、市役所で働く上で求められる力として、特に、課題発見力、計画力、創造力の３つの力が求められると考えました。インターンシップの最終日には、課題研究を行う時間を設けてくださり、そこで伊賀市の課題と解決策を考え、発表を行いました。実習中には、職員の皆様から様々な話をお聴きして、伊賀市の現状を知り、課題を発見することに努力して取り組みました。また、解決策を見出すためには、既存の考え方にとらわれず、様々な視点から考える必要があると気づき、柔軟に物事を考えるよう意識しました。実習を通して、職員の皆様の働く姿を近くで拝見することができ、職員の皆様が、これからの伊賀市のありたい姿をイメージし、常に課題について考え、新たな解決策を見出し、目標の達成に向けて業務を行われている姿がとても印象に残りました。このように、課題研究での経験と職員の皆様の働く姿を拝見し、市役所で働く上で必要な力として、課題発見力、計画力、創造力の３つの力を考えました。このような力を今後、学生生活において身に付けていくために、既存の考え方にとらわれずに、柔軟に物事を考えるよう心掛けたいと思います。

インターンシップに参加し、たくさんの経験や気づきを得て、市役所で働きたいという思いが一層強くなりました。今回の実習で得た学びを、これからの就職活動や学生生活の中で活かし、自身の目標を達成できるよう努力したいと思います。

〔株式会社スタジオアリス〕

企業　お客様のことを考えて

現代社会学部　現代こども学科　２年次

実習期間 8月7日～8月16日
実習時間 10：30～18：30

私は株式会社スタジオアリスのインターンシップに５日間参加しました。特にお客様に喜んでいただくためにはどのように取り組むことが大切なのかを学びました。

実習では、商品の受け渡しと検品の受付業務、着付け、ヘアセット、撮影のアシスタント、写真のセレクト業務を見学・体験しました。どんな場面においても「笑顔」を大切にしてお客様に接客しました。特に印象に残ったことは、着付けと撮影のアシスタントです。まず、着付けでは他の人に着付けをするという経験はこれまでなかったので、上手にできるか不安でした。何度か練習をし、実際に着付けをしました。着付けをしていくうちにお子様の表情が明るくなり、私も勇気をもらい、やりきることができました。夢の世界に引き込まれ、どのお子様も笑顔になる瞬間を見ることができ、やりがいを感じました。そして、そのままアシスタントにもつき、笑顔を引き出すお手伝いをしました。どのお子様も非日常的な世界に入っていて嬉しそうでした。表情や画角、ポーズもタイミングを完璧に綺麗に撮影することは難しいですが、お客様に寄り添い、一生の思い出となり、お客様の期待を越える撮影ができるように、色々なことを考えて行動しました。

私は小さいころ、誕生日や行事ごとに写真を撮影しにスタジオアリスへ行っていました。毎回の撮影が、私にとって大切な思い出として残っています。インターンシップに参加する前に、「なぜ、スタジオアリスの思い出がこんなに記憶に残っているのだろうか」と考えていました。実習をしていくうちに、スタッフの方が、どんなに小さなことでもお客様に寄り添い、接客をされているからだと感じました。これはお客様に喜んでもらうために取り組まれていることで、私も実習を通して、たくさん吸収することができたと思います。

そして、スタッフの方は皆様、笑顔でコミュニケーションをとってくださり、やりがいを感じて働かれていました。「働く」という点において、楽しいということがどこかにあるように感じました。今回の実習を通して、スタジオアリスで働くという面で、自分の中の大切な思い出になりました。これは、スタッフの方の笑顔、コミュニケーションから生まれたものだと思います。そして、スタッフの方のやりがいを感じている姿を見て、数多くのことを学び、貴重な時間を過ごすことができました。人生の中で、同じ日が来ることは絶対にないので、自分にとっても相手にとっても大切な思い出に残るように、笑顔、コミュニケーションを欠かさず、１日１日を大切に過ごしていきたいと思います。また、接客はマニュアル通りにすることを重要視するのではなく、寄り添っていくことが大切だと分かりました。アルバイトでも接客をしているので、これからはこれまで以上にお客様に寄り添うことを意識していきたいと思います。

英語英文学科

〔日本航空株式会社　バンコク支店〕

企業　膨らんだ思い

表象文化学部　英語英文学科　３年次

実習期間 9月2日～9月6日
実習時間 9：00～17：00

初めて海外旅行を経験した19歳の時以来、異文化に対する興味が深まり、海外勤務もしくは日本と海外の橋渡しとなる仕事に就くことが私の夢です。日本航空株式会社バンコク支店での５日間の実習は、働く選択肢における視野を広げ、この夢への思いがさらに強くなった貴重な経験となりました。

私が感じた海外支店の魅力は、異文化が混じり合う職場環境です。お互いに話す言語や文化、習慣が異なるため、意思疎通の難しさもあると伺いました。しかし、タイの文化における物事に対するおおらかさは、日本にはない魅力の一つだと考えます。また、社会保障制度に遅れがある一方で、LGBTQや障害者雇用に対して働く環境を平等に提供しようとする姿勢は、日本よりも進んでいます。このように、両国の良い点や見直すべき点を働く環境から学べるのは、海外支店ならではの魅力だと感じました。実習を通じて知った企業の魅力の一つは、いつでも私たちの安全で安心なフライトを第一に考え、行き届いたホスピタリティを提供していることです。グランドハンドリングに関する知識はほとんどありませんでしたが、安全なフライトのために私たちが普段目にしない部分で多くの方が働いていることを知り、その重要性を理解しました。短い時間内にミスのない整備を行う仕事は、まさにプロフェッショナルだと感じました。また、空港でグランドスタッフの業務体験をする前に空港旅客セクションの方からJALのホスピタリティについての指導を受けました。指先まで気を配る丁寧さがあり、この礼儀作法が世界から支持される理由の一つだと思いました。対応したお客様の中には外国籍の方も多く、英語での対応も求められました。実際にお客様を前にした時の緊張感は大きかったですが、教わったホスピタリティを意識しながら取り組むことで、達成感を得ることができました。

実習で社員の皆様とのコミュニケーションを通じて、働くことの楽しさを実感すると共に、ハードなスケジュールではありましたが、大変充実した日々でした。また、異文化を含めたどんな環境でも柔軟に対応できる点が自分の強みである一方で、発言力や積極性が課題であることにも気づきました。この実習を通して、それらを改善していきたいという思いが芽生え、結果として、海外で働く挑戦をしたいという気持ちが一層強くなりました。最後に、このような貴重な機会をくださった日本航空株式会社バンコク支店の皆様、そして最後まで手厚いサポートをしてくださったキャリア支援部の皆様に、心より感謝申し上げます。

〔日本航空株式会社　バンコク支店〕

企業　インターンシップを通して

表象文化学部　英語英文学科　３年次

実習期間 9月2日～9月6日
実習時間 9：00～17：00

５日間のインターンシップを通じて、自分が理想としていた職業のイメージと、実際に働くという現実を照らし合わせることが出来ました。日本航空株式会社では、日本の社会課題に対して取り組んでいるということを学びました。実際に、飛行機を飛ばすだけでなく、人やモノのつながりを創出し関係人口増加に貢献していたり、過疎化している地域を活性化させるために様々なプログラムを企画し、行く目的を作り出していたりと様々な取り組みを行っていることを学びました。特に、オーバーツーリズムを回避するために旅行の地域や時期を分散させるツアーの企画は、環境への配慮にもつながる取り組みとして非常に興味深かったです。また、客室乗務員のセッションでの講義で、「笑顔は他人を笑顔にするだけでなく、自分自身も明るく元気な気持ちにする」という言葉が印象的で、日々笑顔を心がけていきたいと改めて思いました。また、営業部門、整備部門など様々な部門が存在することを知り、自分が憧れていた客室乗務員という仕事は、会社全体の一部だったのだということが分かりました。しかし、グランドスタッフや客室乗務員は会社の「顔」として、お客様に直接接する業務にあたっているため、大きな責任が伴う仕事だということを学びました。

実習中や、昼食の際に、実際に職員の方々から話を聞ける機会も多かったため、「働く」ということや「海外で働く」ということに対する具体的なイメージをすることが出来ました。私は今まで、「働く」ということに関して、「残業」、「ブラック」といったマイナスなイメージしか持っておらず、社会人になることにネガティブな感情を持っていました。しかし、実際に働いている方々にお話を聞いて、「私は仕事をすることが楽しくて仕方がない」とか「家に帰っても仕事のことを考えてしまうほど仕事が好き」とか、「お客様にものを投げられたり心ないことを言われたり、つらい時もあるけどそれ以上に楽しいことがあるから仕事をやっている」「趣味が仕事だ」といった実際に働いている方の前向きなお話を聞いて、仕事は大変なこともあるけどその中でやりがいであったり、楽しみだったりを自分で見つけていくことが大切なのだと気づくことが出来ました。

このインターンシップを通じて、企業の利益だけでなく、企業の社会への貢献も重視し、就職活動をしていきたいと感じました。そうすることで、より仕事に対する達成感や満足感が得られるのではないかと思いました。そして、楽しみというのは仕事においても待っていてもやってこず、自ら楽しむ努力をしなければならないのだと実感しました。どんな状況でも、自ら楽しみを見つけるとことを大切にしていきたいです。

〔株式会社パソナグループ〕

企業

１人１人と向き合う

表象文化学部　英語英文学科　３年次

実習期間 9月2日～9月6日
実習時間 9：00～17：00

今回のインターンシップを通して、たくさんの気づきを得ることができた。その中で、営業同行させていただいた経験から３つのことを学んだ。

１つ目は、事前準備を怠らないことである。私が実際に同行したのは、企業と求職者の方とお話しする場だけであったが、担当者の方はそれまでに念入りな準備作業が必要である。例えば、求職者と企業の顔合わせに同席する場合、相手企業の情報はもちろん、求職者であるお客様の経歴、そして当日の流れを十分頭に入れておかなければならない。面談を取り仕切るのは担当者である社員の方々であるため、準備不足などで手間取ってしまっては双方に不安感を与えかねない。したがって、細かな部分まできちんと確認し、万全の準備で臨む必要がある。また担当してくださった社員の方にもお話を伺うと、面談前日には準備のために前もって時間を設けておくそうだ。当日に向けてあらかじめ用意をしておくことで、気持ちに余裕をもって臨むことができ、交渉も上手く進みやすいのではないかと感じた。

２つ目は、思いやりを持つことだ。私は“営業”と聞くと、会社の功績のため強引に契約するよう誘導されたり、勧誘などが多いイメージがあった。しかし、実際には全く違っていた。担当者の方々はお客様のことを第一に考え、尊重し、寄り添う接客をされていた。それはWeb面談を見学させていただいた時のことである。ここではお客様の職歴を一緒に確認した後、事前に伺った希望を元に担当者が職場を提案するという流れで進めていく。内容としては、派遣社員の仕組みや企業の紹介が主であるため、どうしても社員からの一方的な会話になってしまいがちだ。そのため、担当者はお客様が正確に情報を理解できているか表情を見ながら話し、その都度確認を取りながら面談を行っていた。分からないことや不安を放置せずにすぐ解決してくれるので、お客様も後半は安心されてリラックスした様子だった。そして特に印象的だったのは、ある求職者の方がこれから働くうえでの不安を口にされた際、それを前向きな事柄に言い換えていたことだ。これは即座にできることではなく、常に人のために何かしようという気持ちを持っていなければ難しいことだろう。

３つ目は、お客様に正面から向き合うことである。皆それぞれ性格や好み、得意なことが異なる。そのため、担当者は顧客によって分かりやすい話し方や言い回し、対応をとることが重要だ。ただ形式通りにカウンセリングを行うだけでなく、相手が話しやすい環境を作ることで素直な意見も出やすいのである。人々と関わるうえで最も大切なことは、その人を理解する努力を惜しまないことと、心から寄り添うことだと感じた。

これからの大学生活はもちろん、就職活動などで多くの人と出会うことになるだろう。そのため、今回学んだことを常に意識しながら行動していきたい。

〔日本航空株式会社　バンコク支店〕

企業

バンコクでのインターンシップを通して

表象文化学部　英語英文学科　３年次

実習期間 9月2日～9月6日
実習時間 9：00～17：00

私は５日間、日本航空株式会社バンコク支店でのインターンシップに参加しました。このインターンシップに参加した理由は、客室乗務員になりたいという夢があること、そして昨年１年間の協定大学留学を経て、外資系企業での就職や海外での生活への関心が一層高まったからです。

当初私は、グランドスタッフや客室乗務員のお仕事について理解を深めたいと考えていましたが、５日間を通して、客室乗員室や空港旅客だけでなく、総務や営業、整備、貨物といった全てのセクションを紹介していただき、視野を広げることができました。また、日本人社員の方々と懇談会を通じて、海外で働く日本人としてのリアルなイメージを得ることができました。そこで私が学んだことは、大きく分けて２つあります。

１つ目は、１つの目標に向かって取り組む際のチームワークの重要性です。これまでエアライン業界の就職活動を進める中で、航空会社で働く方から「飛行機一機を飛ばすことにやりがいがある」という言葉を聞くことがありました。しかし、正直なところ、それまでその言葉の重みを実感できていませんでした。しかし、実際にハンドリング業務を体験し、直接お客さまに接したり、整備のお仕事を見学する中で、飛行機が無事に出発したときの達成感はこれまで感じたことのないほどの大きなものでした。お客さまがJALを選んでくださったことに対する心の底からの喜びは今でも忘れられません。それは、整備士やグランドスタッフ、パイロットや客室乗務員など多くの方々が協力して実現できた結果だからです。そこで、何でもチームで挑戦することの大切さを学びました。また、就職活動においても、一人で悩むのではなく、家族や友人、先生に頼りながら、団体戦として取り組み、自分の価値を見つけ、示すことが重要だと考えました。

２つ目は、企業の規模にとらわれず、社会問題も視野に入れながら課題解決に取り組むことの大切さです。最終日には、実習のまとめとして45分のグループプレゼンテーションを行い、バンコク支店に対しての提言を日本人社員の方々の前で発表する機会をいただきました。私たちはSDGsを取り入れた課題解決方法や、航空会社に縁の薄い方々へのアプローチ方法について提言しました。社員の方々は広い視野を持ち、企業内だけでなく、社会全体を視野に入れた提言をしている点を高く評価していただきました。

５日間という短い期間ではありましたが、毎日タイの文化に触れながら滞在し、海外で働くことのイメージを明確にすることができました。また、この貴重な経験を通じて学んだことを就職活動のみならず、普段の学生生活や私生活においても大いに役立てていきたいと思います。

〔株式会社きんでん　京都支店〕

企業

思いやりの大切さ

表象文化学部　英語英文学科　３年次

実習期間 9月3日～9月12日
実習時間 8：30～17：30

私は株式会社きんでん京都支店にて８日間のインターンシップに参加させていただきました。就職活動をする上で業界研究をしていくうちに、インフラは仕事のみならず我々の日常生活に深く根ざしたものであると気が付きました。きんでんは電気設備工事を主に取り扱う企業であり、家庭への配電のみならず大学や商業施設での工事も請け負っており、私たちの生活に特に身近にあると実感したことから興味を持ち、今回のインターンシップの参加に繋がりました。インターンシップ中、総務、統轄、そして経理の３チームで実務を経験させていただきました。各チームそれぞれに特色があり、偏に事務職といえ様々な業務があるのだと理解することができました。

このインターンシップで強く感じたことは、人とのつながりを大切にすることの大切さです。これを実感した社員の方々の行動が３つあります。１点目は、コミュニケーションについてです。社内では、部署を超えて社員の方々がコミュニケーションを交わす場面を多くお見かけしました。日頃の小さなやりとりの積み重ねで業務が円滑に回り、ひいては快適な職場環境に繋がるのだろうと思いました。２点目として、業務に取り組む姿勢についてです。業務を限られた時間内に行うことに難しさを感じていた際、社員の方からスピードよりも親切心を持って取り組むことを優先すべきだというアドバイスをいただきました。これ以降、自分一人で取り組んでいる業務でも、常に見えない相手を意識するようになりました。３点目は、周りの方々の様子をよく見ていることです。社内の回覧書類に関して、他の社員の方々が離席しているなどの理由でスムーズに回らないことも多々あるため、周りの方々の様子をよく見て行動することが大切だと教えていただきました。これら３つの例は、全て相手に気配りをしているという共通点があると気が付きました。インターンシップに参加するまで、業務上のコミュニケーションとして報告、連絡、相談の３点を思い浮かべていました。しかしながら、今回の実習を通して、周りの方々が快適に働くことができるようにする工夫など、小さな思いやりもコミュニケーションの一環であり、とても大切にするべきことなのだと思いました。

インターンシップ参加前に立てた、社会で働く上で今の自分に足りていない能力を知るという目標は、以上の気付きを得られたため、概ね達成できたと思います。また、８日間に渡って同じ会社でインターンシップに参加させていただく機会は滅多にないため、より深く社員の方々と関わりを持て、社内の雰囲気を十分感じることができ、リアルな職業観の形成に繋がりました。さらに、前述の通り、同じ業種でも取り組む業務内容が大きく異なることを理解したことで、自己分析を通して自分が何をしたいのかを知ることが就職活動において必要不可欠だと思いました。株式会社きんでん京都支店での貴重な８日間を、今後の就職活動や社会人になってからの生活にも大いに役立てていきたいです。

〔株式会社JTB　マレーシア支店〕

企業

インターンシップを通して得たもの

表象文化学部　英語英文学科　３年次

実習期間 9月9日～9月13日
実習時間 9：00～18：00

私はこの夏、株式会社JTBマレーシア支店のインターンシップに参加させていただいた。参加理由としては、海外の文化に興味があり、加えて、サービス業に携わりたいと考えていたことからである。初めに、このインターンシップに参加するにあたり、自分の中で目標を二つ設定した。一つ目に、「自分が何の業界に興味があり、どういったことに自分の力が活かせるのか、または活かせないのかを知る」ことである。二つ目に、「自分のなかで不安要素を残さないように積極的に行動する」ことである。二つ目に関しては、インターンに参加する上で当たり前のことであるが、海外の地で10日間生活することの非日常的な環境でも自分の力を最大限に発揮することが重要だと考えた。結論として、目標達成に近づくことができ、この５日間はとても充実したものになり、沢山の学びを得ることができた。

次に、実際行った業務内容についてである。株式会社JTBは旅行会社であり、私はアウトバウンド（マレーシアから海外へ）の業務に携わった。基本的にはデスクワークであり、翻訳や、航空券の発券、顧客情報のダブルチェック、顧客とのメールのやり取りを行った。また、実際にJTBが提供している『マラッカツアー』に参加させていただき、ツアーの内容についてのフィードバック、さらに１分～２分程度のショートムービーを作成し、英語でのプレゼンテーションを行った。お昼休憩には、社員の方々や他の実習生の方と食事に行き、自分の将来についての考えを深める良い機会となった。

このインターンシップを通して、旅行業界の企業研究を深められたことはもちろん、社会人としてのマナーや常識を同時に学ぶことができた。具体的には、顧客とのメール連絡に、どういった言葉遣いが適切かを教わった。また、一日ツアーに参加させていただいた際に、ツアーの参加者ではなく、改善点や良い点を探しながら企業の一員として参加できたことが自分の中でとても新鮮に感じた。さらに、重役の方々の前で英語を使ってプレゼンテーションを行った時はとても緊張したが、その何倍も得たものがあり、自信を持って挑戦できたことを誇らしく思う。この経験は確実にこれからの自分の人生の糧になり、自信に繋がるだろう。

今回海外インターンシップならではの気づきもあった。一つ目に、中国や韓国の進出や勢いが非常に強いことを身に沁みて感じた。マレーシアの街を歩いてみると、中華料理が主流であったり、韓国アイドルが起用されている広告を沢山目にした。そんな中でも、日本のアニメの勢いの強さも再確認させられた。また、マレーシアは信仰の自由が深く根付いていて、様々な宗教の色を感じた。実習先でも、様々な言語が飛び交っており、それに対応する日本の方のスキルにとても感銘を受けて、自分もこうなりたいと思える目標になった。

最後に、このインターンシップを通して、自分の人生に大きな影響を与え、社会人になるイメージが想像できた。この経験をしたからこそ感じる思いや考え方を大切に、これからも精進していきたい。

〔京セラコミュニケーションシステム株式会社〕

企業

新たな業界から学んだこと

表象文化学部　英語英文学科　３年次

実習期間 8月21日～8月27日
実習時間 10：00～17：00

私は８月後半の約１週間、京セラコミュニケーションシステム株式会社様のインターンシップに参加させていただきました。当初、英語英文学科に所属している私にとって、コンピュータやITに関する業界は何もかもが未知の世界でした。しかし、社員の方々のおかげで自分の知見を広げることができ、これから本格化してゆく就職活動に活かせる経験を積むことができました。

京セラコミュニケーションシステム株式会社様のインターンシップでは、５日間を通して主にシステムエンジニアとしての様々な業務を学ぶことができました。アプリケーションからセキュリティなどに関するものまで、とても幅広い分野です。また、社員の方々のお話を聞かせていただく機会もあり、より実際の仕事現場の雰囲気を感じ取ることができました。このインターンシップは全日、Zoomを使ったオンラインで行われました。初日にグループを作りメンバー同士協力しながら様々な業務を体験していきました。初対面ということで緊張していましたが、社員の方だけではなくコンピュータに詳しい学生もおられ質問できる環境にあったため安心することができました。個人的に一番驚いたことは、コンピュータ、IT業界の職場の雰囲気です。インターンシップに参加する前はIT業界に対して、主に個人プレーでパソコンと日々向き合い続けているというイメージがありました。しかし、たとえオンラインだとしてもそのイメージは必ずしも正しいものではないことを初日から感じました。思っていた以上に仕事のなかで人と関わる機会が多く、基本的に個人で仕事を行うことはとても少ないため、コミュニケーション能力が不可欠です。そして、なによりも社員の方々がこの仕事が好きであるという印象を強く受けました。どんな仕事をするにも楽しんで、仕事が好きでないと続けることができないと思います。だからこそ、やはり職場の雰囲気などは仕事を選ぶうえでとても重要になってくるのだと再認識することができました。また、京セラコミュニケーションシステム株式会社様では、入社後も多くの社員の方々が勉強を続けていることがとても興味深かったです。決して入社してゴールというわけではなく、資格に関することなど、ずっと勉強を続けていることがとても素晴らしいと思いました。条件によってはその時間が業務時間の一環として換算されることにとても驚きました。社員の方々の、成長し続けようとする姿勢を見習いたいと思います。

このインターンシップではオンラインで行われたとは思えないほど、多くの充実したことを学びました。参加前には文系の私には向いていないかもしれないと不安でしたが、今回思い切って挑戦し、自分自身成長することができたのではないかと思います。

〔近江八幡市役所〕

官公庁

インターンシップで学んだこと

表象文化学部　英語英文学科　３年次

実習期間 7月20日～8月4日
実習時間 9：30～16：00

私はインターンシップＩＡに参加し、多くのことを学び、貴重な経験を積むことができました。この実習を通して、視野が広がり、人との関わり方やコミュニケーションの重要性について深く考える機会を得ました。

まず、一つ目に学んだことは、人との関わり方は一人ひとり異なるということです。障がいのある方を対象にしたサマースクールで実習を行いましたが、そこで感じたことは、たとえ同じ障がいを持っている方であっても、その人に合った対応の仕方は全く異なるということです。最初はどう対応すれば良いのかが分からず、試行錯誤の連続でした。しかし、時間をかけて一緒に過ごす中で、徐々に相手にとって適切なコミュニケーション方法や接し方が見えてくるようになりました。そうして利用者の方が、少しずつ私に心を開いてくださるようになり、とても大きな喜びを感じました。自分の行動や言葉が相手に影響を与え、その結果として信頼関係が築けることは、とても貴重な体験でした。

二つ目に学んだことは、笑顔の持つ力です。私は、どんな場面でもできる限り笑顔を心がけて接していました。最初は緊張していた方々も、笑顔でいることで少しずつ安心していただけるように思いました。笑顔は、相手の心を和らげ、コミュニケーションを円滑にする大きな要素であると実感しました。これからも、どんな状況でも笑顔を忘れず、周囲の人々に安心感を与えられる存在でありたいと強く思っています。

実習の最終日、ある利用者の方に「今日が最終日です」とお伝えしたところ、その方が涙を流してくださったことは、私にとってとても感動的な瞬間でした。ほんの短い期間ではありましたが、こうして深い絆を感じることができたことは、私の心に深く刻まれています。人と人との間に築かれる温かい繋がりや感情の交流は、言葉では言い表せないほど大切で、かけがえのないものだと改めて実感しました。

このインターンシップに参加する前は、自分の進路について明確なビジョンを持っておらず、迷いや不安がありました。しかし、今回の経験を通じて、私は「人と関わる仕事に就きたい」という強い思いを抱くようになりました。人との関わり合いの中で得られる喜びや成長、そして相手に何かを与えられることの素晴らしさを感じ、このインターンシップが私の進路選択において、とても重要なものとなりました。今後もこの経験を糧にし、人と人との関わりを大切にしながら、成長を続けていきたいと思います。

〔株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド　ザ・プリンス京都宝ヶ池〕

企業

インターンシップを通して

表象文化学部　英語英文学科　３年次

実習期間 8月30日～9月7日
実習時間 11：00～20：00

私は今回、株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド　ザ・プリンス京都宝ヶ池で５日間のインターンシップに参加いたしました。もともと、人と関わる仕事がしたいという思いが強く、宿泊業界に興味を抱いていたため、今回のインターンシップへの参加を決断しました。内容としては、宿泊部門、飲料部門、宴会部門の３つの部署で、それぞれ接客業務を中心に実習をさせていただきました。毎日異なる部署で働くことで、新鮮さを感じながら非常に充実した５日間を過ごすことができました。

インターンシップを通して、特に学んだことは「責任感」と「相手を思いやる心」の２つです。

まず、１つ目の「責任感」についてです。社会に出て働くということは、これまでのアルバイトとは異なり、社会人としての自覚を持って自ら考え行動することが求められます。インターンシップ中に、新入社員の方々と話す機会がありましたが、皆様の堂々とした姿勢や接客の様子から、強い責任感をお持ちであることを理解しました。入社から半年ほどとのことでしたが、実習生である私たちに積極的に指示を出していただたり、自信を持った行動が印象に残りました。私自身も社会に出た時には、責任感を持って業務に取り組み、他者から信頼される存在になりたいと思いました。

次に、２つ目の「相手を思いやる心」についてです。宿泊業界では特に、相手の立場になって物事を考え、行動することが重要です。お客様がホテルに訪れる背景や状況を想像し、その上で最適な対応を行うという心構えを、実際に働く社員の方々から学びました。これまでの接客ではそこまで深く考えていなかった部分もありましたが、ホテル業界ではお客様が期待する以上のサービスを提供することが、高いホスピタリティにつながるということに気付かされました。現在のアルバイトや将来就職した際に接客するときには、お客様の立場をより意識し、心から満足していただけるサービスを心掛けたいです。

また、このインターンシップで気付いた自身の課題は、「自ら考え、行動する力」が必要であるということです。実習生という立場から、どうしても受け身になってしまう部分があり、積極的に動くことができなかった場面もありました。また、緊張すると焦りや動揺が生じてしまい、それが行動に表れてしまうことも自分の弱みだと感じました。ホテルはお客様にリラックスやリフレッシュを提供する場所であり、接客をする私自身が不安定な気持ちでは、逆にお客様に不安を与えてしまうかもしれません。今後は、どのような状況でも落ち着いて堂々と対応できるよう、自信をもって行動したり、日々の準備をしたりすることを大切にしたいと思います。

最後に、このような貴重な経験を提供してくださったザ・プリンス京都宝ヶ池の社員の皆様、そしてかかわってくださった全ての方に深く感謝申し上げます。５日間という短い時間でしたが、このインターンシップで気付かされたことも多く、非常に良い経験をさせていただいたと思います。今回得た学びを、今後の就職活動や日常生活に生かし、より成長していけるよう努めます。

〔株式会社DAY TO LIFE〕

企業

学びと成長の12日間

表象文化学部　英語英文学科　３年次

実習期間 8月10日～8月30日
実習時間 9：00～18：00

私はこの12日間のインターンシップを通して、人とのつながりの重要性や自分のキャリアを形成するスキルを学んだ。今回参加したインターンシップでは、対面での実習10日間とオンラインでの事前事後学習２日間の中で様々な部署を体験し、それを通して自分の将来像とその歩み方を社員の方々の指導のもと考えた。参加前は就職活動の準備を少しずつ進めていたものの、自分がしたいことや向いていることは何なのかをはっきりと分からずにいた。そのため、募集要項に書かれていた『あなたの「なりたい自分」の見つけ方をお教えします!!』を目にし、社会人基礎力を高めて自己理解を深めることを目標に参加を決めた。まず社会人基礎力を高めるために、自分の意見を積極的に出すことを心掛けた。参加前の課題は、自分の意見に自信が持てず聞き役に回ることがあるという点であった。それを改善するために、すべてのワークに積極的に参加することを徹底した。実習では、毎日何度もグループワークをする機会があり、最初はレベルが高い参加学生たちを前にして、意見を出すことにハードルの高さを感じてしまっていたが、私の意見がワークの精度を高める結果に繋がることがあったり、話し合いの中で分からないことがあれば正直に質問をして、その場で解決できたりしたことなどから、以前より意見を出すことに自信を持てるようになった。また、社員の方に質問をすることも意識した。大勢の中での質問は緊張したが、この経験によりさらに発言力やコミュニケーション能力が高まったと思う。次に自己理解を深めるために、実習中に自分がどう感じたのかを意識することを心掛けた。なぜならそれは、その仕事に対する自分の素直な気持ちであり、その気持ちを整理することが自己理解に繋がると考えたからである。これにより、複数の部署の体験を通して、お客様と直接やり取りをする仕事に最もやりがいや楽しさを感じるということに気付くことができた。

また、対面10日間の実習期間中、特に印象的だったことが主に２つある。まず１つ目は、商品発売までの道のりの長さである。一つの商品をお客様に届けるのに、想像をはるかに超える様々な点を考え、そしてそれらを一貫性のあるものにしなければ商品を売ることはできないということを学び、モノづくりの厳しさを体感した。２つ目は、参加学生のプレゼンテーションの姿である。発表中の彼らは堂々と自信を持って聴衆の目を見ながら話していて、あがり症で大勢の前でうまく話すことができない私の新たな目標となった。今後は培った発言力をもとにネガティブ思考をできるだけ排除して、以降の企業イベントや大学でのプレゼンテーションを体験し、やり遂げることで、大勢の前でも自信を持って表情豊かに堂々と話すことができるようにしていきたい。

〔豊中市役所〕

官公庁　人との関りと信頼

表象文化学部　日本語日本文学科　３年次

実習期間 9月2日～9月6日
実習時間 8：45～17：15

私が産業振興課の実習を通して感じたことは、「人々との関係」をとても大切にしている部署であるということだ。この部署は、豊中市内で事業を展開している事業者や起業したいと考えている人向けの相談所の方、農家の方など、様々な形で豊中市を支えている方々とのかかかわりが非常に深い。産業振興課の中にはたくさんの係がある。それぞれの係で全く異なる仕事をされていたが、共通していたのは、人々との関係をとても大切にされていて、尚且つ、事業者の方々との信頼関係が築き上げられているということだ。これは職員の方々が仕事に誇りをもって、事業者の方と真摯に向き合ってきたからこそ成り立っているのだと感じた。

事業所訪問に同行し、職員の方々と名刺交換をさせて頂く機会がとても多かったが、最初の頃は、自分の名刺を持っておらず、名刺交換のマナーも身についていなかった。そこで、名刺交換のマナーを調べるだけでなく、産業振興課職員の方にも練習に付き合って頂いたことで、スムーズに名刺交換が出来るようになった。現場に同行し、名刺交換をさせて頂く機会は、インターンシップでもなかなか経験出来ないだろうと思った。将来どのような職業に就いても必要となる名刺交換を経験することが出来たのは、大きな学びであったと感じている。

実習内容として、様々な事業所のヒアリング訪問に同行させて頂いたことが印象に残っている。革製品を製作・販売している事業者の方に、仕事内容や商品を製作する上でのこだわり、今後の目標等について聞き取りを行い、記事にする経験をさせて頂いた。そこで学んだことは、聞き取りはインタビュー形式ではなく、一つの会話から話を広げていき、その中で印象に残ったことを記事にまとめるということだ。私は、事前に事業について調べて、質問内容をたくさん考えていたが、職員の方に「質問を固めていくというより、会話することを意識して自然に話すと良いよ」とアドバイスを頂いた。そのことを意識して臨むと、自然に会話をするように聞き取りを行うことが出来た。このことから「聞き取り」を、「会話をする」という見方に変えることが出来た。

このように、産業振興課で人との接し方や名刺交換のマナー、事業者の方々の事業にかける思い、そして職員の方たちが誇りをもって仕事をされていることを実際に感じることが出来、多くの学びを得た。

〔明治安田生命保険相互会社〕

企業　インターンシップを通して学んだこと

表象文化学部　日本語日本文学科　３年次

実習期間 8月28日～9月3日
実習時間 10：00～17：00

私は明治安田生命保険相互会社で５日間のインターンシップに参加させていただきました。５日間の実習では、生命保険や病気の知識の習得、模擬職域活動、２大プロジェクトの企画、職員の方との座談会、コンサルティング提案ワークなどの法人総合営業職の実習を行いました。

この実習を通して学んだことが三つあります。一つ目は、生命保険会社の役割を超えた「明治安田」の取り組みです。万一のときに生命保険に込めた“伝えたい思い”を死亡保険金受取人さまへお届けする「エピローグ・レター」やお互いの顔を見ながら非対面で資料の御説明をお受けいただける「オンライン面談システム」は、常にお客さまのニーズや課題に寄り添われたアフターフォローであると感じられました。また、学校での金融・保険教育などを例とした地域のみなさまとの社会的なつながりを提供する「地元の元気プロジェクト」や、健康診断やがん検診の受診をサポートする“ベストスタイル健康キャッシュバック”という商品を例とした「みんなの健活プロジェクト」の取り組みにより、新たな価値を生み出していることがわかり、もしものときだけでなく普段の日常生活から寄り添うことを大事にする「明治安田」の思いが理解できました。

二つ目は、実際に働く上でのやりがいや姿勢、考え方です。健活プロジェクトの企画を行うワークでは、京都府のがん検診の受診率を上げるためのイベントを考えました。どのような人を対象とするのか、また、ターゲットにそのイベントに参加してもらうにはどのような工夫を行えば良いのかを、ターゲットの立場になって考え、納得のいくプロジェクトを企画することができました。コンサルティング提案ワークでは、架空の３人家族のお客さまを対象とし、実際の営業のつもりでヒアリングやシミュレーションを行いました。根拠のある保険プランを作成するにはデータを根拠とした提案をすることが大切だとわかりました。お客さまやお客さま家族にはそれぞれどのようなリスクが考えられ、その中で、リスクへの対策に優先順位を付けなければいけないというのはとても難しく感じられました。職員の方との交流会では、入社の決め手やつまずいた経験、その乗り越え方、家庭を持つことで変化したことなど、たくさんの質問に答えていただきました。お客さま、同期、家族など、つながりが増えていくことで、仕事へのモチベーションが向上できるということ、また、仕事の悩みをすぐに相談できる環境があることの大切さについても学ぶことができました。

今回のインターンシップを通じて、社会人として働くということを具体的に想像することができ、自分の将来像についても改めて考えるきっかけとなりました。今まで何事も受け身になりがちでしたが、日常生活から、恐れずに積極的に行動していくことを目標として励んでいきたいです。

〔SMBC日興証券株式会社〕

企業　インターンシップでの学び

表象文化学部　日本語日本文学科　２年次

実習期間 8月26日～9月6日
実習時間 9：00～15：00

十日間のインターンシップでは、大学生活での学びとは異なる多くの経験を積むことができ、非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。

今回のインターンシップに参加するにあたって、二つの目標を掲げました。一つ目は今まで知らなかった業界や分野についての知識を得ることです。私は、大学生になってアルバイトを始めるにあたり、銀行口座を作ったことで金融や投資というものを今までよりも身近に感じるようになり、その分野についての理解を深めたいと考えたため、今回、SMBC日興証券株式会社様のインターンシップに参加することを決めました。実際に働かれている方から証券会社の業務内容や社会的役割、証券が取り扱う金融商品であるNISAや投資信託についてお話を聞けたことは、非常に貴重な経験でした。抽象的にしか理解できていなかった金融についての知識を補うと同時に、「証券会社で働くこと」を自身の将来の選択肢として具体的に考えられるようになった十日間となりました。

二つ目は、コミュニケーション能力と課題解決に必要な思考力を養うことです。最終日のグループ発表の準備時間がほぼ毎日設けられていたため、グループワークを通して普段の大学生活では知り合うことのない他大学の学生と交流することができました。参加している学生は目的意識を持った意欲的な方が多かったため、刺激になりました。私もグループ発表の準備の際には積極的に発言していくことを心掛けました。準備の一日目や二日目は発言をする際に緊張しましたが、思い切って発言することで停滞していた議論に解決の糸口を提供できた経験は自信に繋がりました。また、グループ内で自分がどのような立ち位置であり、どのような行動をすべきかを客観的に把握し行動すること、意見を伝える際には相手が理解しやすい表現を心がけたことで、課題解決の必要な論理的思考力も身につけられたのではないかと感じています。大学生活や就職活動の際に、役に立つこれらの能力を養うことができた良い機会でした。初対面の人とコミュニケーションを取ることに対して抱いていた苦手意識も克服することができました。

そして、今回の実習に参加して最も良かったと感じたことは、自身の強みとこれからの課題を発見できたことです。通常とは異なる環境に身を置き様々な経験をしたことで、これまで分からなかった自分の強みや課題が見えてきました。自ら行動したことで分かった自分自身の長所と短所をこれからの大学生活や進路選択に活かしていきたいと思います。思い切って参加を決めましたが、参加前に想像していた以上の学びと気づきを得られたと実感しています。

最後になりましたが、法人部法人課の皆様には、お忙しい中大変お世話になりました。充実したプログラムによって、これからに活かすことのできるたくさんの学びを得ることができました。十日間本当にありがとうございました。

事前指導講義
「ビジネスマナー講習」

事後指導講義
「グループディスカッション及び発表」

実習の様子

〔株式会社DAY TO LIFE〕

企業　自分自身に革命が起きた12日間

生活科学部　人間生活学科　３年次

実習期間 8月10日～8月30日
実習時間 9：30～18：00

私は、今回インターンシップに参加を決めた際に「積極性と提案力」を身につけるという目標をたてました。現在の大学生活では、昔自分自身が持っていた積極性が徐々に失われ、それに準じて提案力が低下しているという課題があったためです。数ある企業の中で、株式会社DAY TO LIFE様を選んだ理由としては、12日間を通して様々な部署をジョブローテーションすることが可能であり、自らの興味を越えた学びを得られるのではないか、と感じたためです。12日間で特に印象に残っている実習は、10、11日目に行われた新規事業開発プレゼンテーション大会です。この大会では「大学生に刺さる新たなスイーツブランド」をテーマに、社員の皆様の前で発表を行いました。１日目から10日目までの学びを生かし、全く正解のないことと向き合い、チームメンバー、ファシリテーターの社員の方と共にアイデアを重ねていくことは初めての取り組みでした。準備を進める中で、自分のアイデアが鍵となり、様々な観点がつながることを体感できた嬉しさもある一方、他人の意見をくみ取ることが十分にできなかった悔しさを感じました。そして最後に、この12日間の実習全体を振り返る中で驚いたことは、自分自身が「本当は人と話すことが好きである」、「アイデアを形にすることが楽しいと思う」と発見できたことです。また、自分の思うことを頭の中で考えたままにするのではなく、自分を信じて誰かに話すこと、熱意をもって行動しても良いのだと分かり、大学生活の中でできてしまった制限が一つ外れたような気がしています。その制限が外れたことで、なんでも質問してみよう、さらに学びを深めようといった積極性が生まれてきました。ですが、提案力というものはすぐに身に付くものではありません。そこで、他大学の学生の話し方、伝え方を見たり、実際に意識していることを聞いたりし、ヒントを得ようと行動しました。それらから自分の頭の中で伝えたいことを整理し、組み立てて話すということが大切であると学ぶことができました。今回インターンシップに参加したことで、自分の個性は唯一無二であり、それらを発見し成長を続けることの大切さを実感できました。それは私にとって「小さな革命」の連続でした。このインターンシップで学んだことを生かし、自分が何をしてこれからの社会で生きていくのか、自分自身の想いに素直になり胸をはって生きていけるよう、悩みながらも学ぶことを止めずに努力を重ねていきたいと思います。

〔明治安田生命保険相互会社〕

企業　働く上で必要な能力

生活科学部　人間生活学科　３年次

実習期間 8月28日～9月3日
実習時間 10：00～17：00

私は今回のインターンシップIA・IBの取り組みで、明治安田生命保険相互会社の法人総合営業職で５日間の実習に参加させていただきました。実習を通して、明治安田に対する理解を深めることで営業職の仕事内容について知り、さまざまなワークや職員の方との交流会の中で、自信を持って自分自身の考えを正確に相手へ伝えることができるように積極性と言語化能力を身につけたいと考え、このインターンシップIA・IBの取り組みに応募しました。法人総合営業職での実習内容は、明治安田、生命保険の基礎知識を学ぶワーク、営業活動シミュレーション、プロジェクト企画、職員の方との交流会を行い、それらの最終目標としてのコンサルティング提案のプレゼンテーションをしました。また、事前訪問の際に、担当の職員の方から「このインターンシップを通して、雑談力を身につけてほしい」とお話があり、実習の最初に毎回、気になるニュースを全員で持ち寄り、雑談するという時間が設けられました。今までは私自身が関心を持っているニュースを中心に見ていたため、この時間を通して、積極的にさまざまなニュースを見たり、疑問を持って話を聞いたりするように意識するようになりました。今回のインターンシップでは、他の実習生や職員の方と話し合ったり、発表したりする機会がとても多く、元々人前で話すことが苦手だったこともあり、最初の頃は自身の考えを発言したり、話を広げたりすることができませんでした。しかし、実際に営業課の職員の方に行う営業活動シミュレーションや明治安田のプロジェクトの企画、コンサルティング提案などさまざまなワークの中、限られた時間でどのように進め、発表内容をまとめるのか、与えられたテーマの中でどの部分が重要なのか、相手に伝えるべき要素はどれなのか、といった職員の方からたくさんのアドバイスをいただきながら取り組んだことで、グループワークの進め方を学ぶことができました。また、プロジェクトの企画のワークを行った際に、職員の方から「明治安田らしさが足りない」という講評をいただいたことが印象に残っています。テーマの条件や集客する方法を第一に考えていたのですが、その企業に所属しているという自覚と、その企画を行うことでどのようなメリットが企業にあるのか考えることも重要だと学ぶことができました。その学びは、今後の大学の講義や就職活動、社会人として過ごしていく、営業職のお仕事だけではなく、どのような職種で働いていくとしても必要な能力なのだと、この５日間の実習を通して改めて感じることができたので、今後はグループワークのある講義やインターンシップに参加する、さまざまなことに関心を持ち、多くの人と関わったり、経験を積んだりすることで、雑談力や課題発見力、傾聴力を高めていきたいです。

〔株式会社パソナグループ〕

企業　社会で働くということ

生活科学部　人間生活学科　２年次

実習期間 9月2日～9月6日
実習時間 9：30～17：30

私は株式会社パソナグループのインターンシップにて、初日と最終日に事業紹介や講座、グループワーク、中三日に実際の業務の同行をしました。多くの社員の方のお話を聞かせていただき、実際に働いておられるところを見て、たくさんの知識を得たこの５日間を通して、社会で働くということと自分のことについて深く知ることができました。

今回インターンシップに参加した理由は、世の中について知らないことが多く、これから就職活動をして働いていくビジョンを想像することができなかったため、働くということや会社、社会についての理解を深めたいと思ったからです。実際に社員の方が働いておられるところを見るという貴重な経験のおかげで、会社や部署の構造、普段の業務、仕事の際のビジネスマナーなどを知ることができました。忙しい合間を縫ってたくさんの質問にも答えていただき、同行させていただいた仕事は、どのような経緯があり、どのような目的を持ってアプローチし、これからどう行動していくかを知ることができました。そして働くことのモチベーションややりがいについての考えを伺うこともできました。私自身も社員の皆様が働いておられる様子を見て、チームとして全員が協力し、個人でも真摯に生き生きと社会の問題を解決するために取り組んでいるからこそ社会的欲求や承認欲求が満たされ、仕事や自分自身に価値を見出すことができ、働くことに充実を感じられるのではないかと考えることができました。

社会や働くことを知ったと共に、インターンシップを通して自己理解が深まったように感じました。日常ではないビジネスの場であったり、他大学の実習生と関わったりする中で人と違う自分の強みや得意なこと、反対に弱い部分や苦手なことに気づくことができました。また社会人基礎力のような足りないスキル、仕事として自分が関わりたいことや成し遂げたいことを見つけられた、あるいは見つけ出すヒントを得ることができました。

私は社会や世の中の知識がまだまだ少なく、自分の将来を選ぶ材料もない状態で、それらを知りたいという一心でインターンシップに参加しました。そのためビジネスの場に行くことに対する不安も大きかったのですが、事前指導講義で準備することができ、またインターンシップで関わった社員の皆様の優しさや温かさのおかげで非常に充実した５日間になりました。また今回得た知識や学び、気づきはインターンシップという貴重な体験でしか得られないものだったと感じています。５日間という短い期間でしたが、仕事における一つ一つの小さなことから仕事との向き合い方まで非常に多くのことを学び、自分の弱い部分やスキルといった新たな課題を見つけることができました。今後は今回学んだ社会で働くということを基本に、自分の強みを生かしてどのように社会に貢献していけるのか模索してまいります。

〔株式会社京都ホテル〕

企業　気づきとありがとう

生活科学部　人間生活学科　２年次

実習期間 9月18日～9月26日
実習時間 7：00～15：00

今回のインターンシップを通して、１番良かった点は自分自身に足りないものに気づけたことである。

私は将来サービス業に就きたいと考えており、また東京のホテルでのアルバイト経験があったために京都ホテルでのインターンシップを希望した。東京のホテルで得た経験や知識を生かすことが出来るのかを知りたく思ったからである。京都と東京ではもちろん訪れる客層や環境が大きく異なる。

京都ホテルでは料飲部レストランサービス課オリゾンテに配属された。実習期間は１日８時間の８日間であった。実習内容は主に接客、バッシング、補充であった。８日間とも同じ内容だったが日々成長することが出来たと感じている。オリゾンテは忙しくも、今行った自分のサービスの良かったところや悪いと感じたところを振り返ることが出来たのがとてもよかった。アルバイト先のホテルではずっと忙しく、お客様の対応をしたらすぐ次の対応が求められることが多く、自分がいま行ったサービスはどうだったかなど振り返る時間は全くなかった。そのため自分自身の良かったサービス、悪かったサービスが知ることができた。主に良かったサービスはお客様によって対応を変えることが出来た点である。オリゾンテに訪れるお客様の年齢層はとても幅広く老若男女、団体・個人、日本人・外国人といったように様々であった。その為、そのお客様にあった対応を考え行動に移せるというのが長所であるとわかった。しかし、まだまだ未熟ではあるため経験を積み、さらに長所を伸ばすことが可能であると考えている。反対に悪かった点は、臨機応変な動きができなかった点である。お客様が飲み物をこぼしてしまった際におしぼりなどを用意することはできたが、自分自身もやや狼狽えてしまい、「お召し物は大丈夫でしょうか」などの声掛けもできなかった。これも経験を重ねることによって克服できると考えた。

実習期間中に特に印象に残ったことは「ありがとう」をたくさん言ってもらえたことである。特に外国人のお客様からもらった日本語での「ありがとう」は強く記憶に残っている。お皿を下げることなどは、善意ではなく仕事である以上行わなければいけない行動などだが、感謝の気持ちをいただけるということがとても嬉しかった。

今回のインターンシップを通して、自分自身に足りないサービス技術や対応力を具体的に知ることができ、今後に繋がるということがとてもうれしく思う。サービス業をするにあたり人と人との接し方をより日常的に考え、気持ちの良いサービスが出来るように日々努力をしていきたい。また自分が「ありがとう」と言われてとても嬉しかったので、これから小さなことでも感謝を言葉にして伝えられる人間になりたいと感じた。この実習を通して、色々なことを学べたので今後に活かしていきたい。

食物栄養科学科

〔株式会社DAY TO LIFE〕

企業　再確認した食への情熱とチームワークの重要性

生活科学部　食物栄養科学科　３年次

実習期間 8月10日～8月30日
実習時間 9：30～18：00

私は、株式会社DAY TO LIFE様が開催するインターンシップに参加し、ビアードパパというブランドに関する業務を通じて多くの学びを得ることができました。インターンシップに参加した理由は、食に関わる業務の全体像を理解し、自分自身の将来の進路を具体化するためでした。幼少期から食に対して強い関心を持っていましたが、どのようにその興味を職業として活かしていくのかは漠然とした考えしかありませんでした。そのため、この実務的な経験を通じて、食に携わる道をさらに明確にしたいと考えました。

今回、商品企画開発、マーケティング、営業といった様々な部署での体験があり、普段の学業では学べない実務的な知識を得ることができました。特に商品企画開発の現場で体験したことが印象深く、アイデアを実際の商品として形にするプロセスの難しさを理解しました。私たちは与えられたテーマに基づいて新しいシュークリームを開発する課題に取り組みましたが、理想の味や見た目を実現するためには、味覚や見た目だけでなく、コスト、製造工程など、様々な要素をバランスよく調整しなければならないことを学びました。さらに、チームでの協力が非常に重要であり、個々の努力が相乗効果を生み出し良い結果に繋がることを実感しました。

また、マーケティングの部署での顧客ニーズを分析する過程では、単なるデータ分析だけでなく、消費者の行動や心理を深く理解する必要があり、データをどのように解釈し、具体的な施策に落とし込むのかが重要だと学びました。また、ビアードパパならではのブランドイメージやこだわりをどのようにしてお客様に伝えていくか、その工夫の積み重ねがヒット商品に繋がることを理解しました。

さらに、他の実習生とのディスカッションやグループワークも非常に刺激的でした。他大学の学生と意見交換をする中で、さまざまな視点から物事を考える重要性に気づきました。プレゼンテーションやディスカッションの経験があまり無く、初日は、他の学生に圧倒されていました。しかし、周囲の積極的な姿勢に刺激を受け、次第に自分から意見を発信し始め、自信を持ってより積極的に意見を出せるようになったことが大きな成長でした。

このインターンシップを通して、食に関わる業務が非常に多岐にわたり、どの部署であってもチームワークが欠かせないことを理解しました。全ての部署がビアードパパのブランドを支えるために連携していることを学び、業務に対する深い責任と誇りを感じることができました。さらに、自分の弱点を見つけ、それを克服するための具体的な取り組みができた上、将来どのように「食」に関わっていきたいか、明確な目標が見えてきました。多くの部署での経験を通じて得た学びを活かし、今後も食に対する情熱を持ち続け、具体的な行動に移していきます。

〔株式会社ロマンライフ〕

企業　インターンシップを通しての学びと気づき

生活科学部　食物栄養科学科　２年次

実習期間 8月19日～8月24日
実習時間 9：00～15：00

株式会社ロマンライフにて６日間のインターンシップに参加させていただきました。毎日多くの新しい気づきや学びがあり、本当に充実した時間を過ごさせていただきました。実習では、ロマンライフへの理解を深めることができただけでなく、これから社会に出た時の大切な考え方や姿勢も学ばせていただきました。今回の実習にあたり、「自分が想像している仕事のイメージと実際の仕事の違いを知り、新たな気づきや視点を得ること」、「今後の自分の課題を見つけること」を自己達成目標として設定しました。実習を終え、設定したこの二つの目標を達成することができたと感じています。

まず、ロマンライフが掲げる「喜びをリレーする」、「幸せ必需品を提供し続ける」という考え方にとても共感しました。「食」というものはただ美味しくてお腹が満たされるものではなくて、様々な気持ちを乗せて人と人を繋ぐものであると思っています。実習先の皆様のお話を聞いたり、実際に接客を行ったりして、食を通して人々を幸せで繋ぐことができる仕事は本当に素敵だと思いました。そして、将来、誰かを笑顔にしたり幸せにできる、夢があり、自分自身も心がときめく仕事に就きたいと思いました。

商品を試食させていただいた際には、商品の特徴やこだわりなど、貴重なお話を沢山聴くことができました。一つの商品を開発するのに、思っていた以上、多くの人が関わっていることを知り驚いたとともに、商品の開発には人と人の繋がりや出会いが大切だということが分かりました。製造現場では、徹底した衛生管理や一つひとつの作業の丁寧さが印象的で、実際にお客様が口にするものを製造しているということへの責任を感じました。また、ご担当者様が仰っていた「自分がやっている仕事のその先にはお客様がいることを忘れない」という言葉が心に響き、常に自分がやっている仕事のその先にあるもののことを考えて仕事に取り組む姿勢は、どの仕事にも共通する大切なことだと学びました。

実習を通して得た今後の課題は「自分の考えをすぐに言語化できるようになる」ということです。自分の考えを言葉にしたり、文章で書いたりすることがとても苦手です。今回の実習を通し、自分の意見を言葉で相手に分かりやすく伝えることは、仕事の様々な場面において、とても重要なことであると思いました。アウトプットの力を伸ばすためには、普段から最も伝えたいことを最初に話すように意識したり、思うままの素直な意見を言葉にするように意識したりすることが効果的であると考えました。また、積極的に様々な人とコミュニケーションをとったり、毎日の日記として日々の出来事を文章化したりしていくことで、少しずつ自分の考えを言語化することに慣れていきたいです。

〔京田辺市役所〕

官公庁　インターンシップを通して

生活科学部　食物栄養科学科　３年次

実習期間 9月2日～9月13日
実習時間 8：30～17：15

私は京田辺市役所学校給食課のインターンシップに10日間参加させて頂きました。こちらの実習先を選んだ理由としては２つあります。１つ目は、これから就職活動が本格的に始まっていく中で、自分の長所や短所は何なのかをインターンシップを通して知っておきたいと思ったからです。２つ目の理由は、行政で働く管理栄養士の仕事を間近で見学・体験することで、自分の興味のある仕事について理解を深めたかったからです。実習を通して、自己理解や仕事理解が深まったことはもちろん、新しい発見も多くありました。

10日間、企画書作成という課題を進めつつ、毎日、管理栄養士の方や調理員の方の業務を見学させていただきました。その中で、特に印象に残ったことは、学校給食の現場には想像以上に多くの人が関わっているということです。学校給食課は本庁の中ではなく、今年新しく出来た給食センターの中にオフィスがあり、そこで実習に参加させて頂きました。中学校給食現場の中心といえる環境で過ごしていると、調理員の方々はもちろん、給食センターの設備に関わる方、中学校の栄養教諭の方など、多くの人が学校給食課を訪れていました。それだけではなく、食材の打ち合わせのために道の駅に伺ったり、中学校巡回の中で配膳員の方とお話させていただいたりなど、こちらから学校給食に携わる方々にお話を聞きに行く場面も多くありました。給食のことでトラブルがあった場合には、学校給食課が中心となって関係者や業者の方に連絡を取り、トラブル解決に努めていらっしゃいました。また、市内の小学校に勤める栄養教諭の方々との話し合いの場では、発注システムやトラブル対応の方法についてなど、より良い給食提供のために意見を交換し合っていました。このように、多くの人が給食に関わる場面をたくさん見学させて頂く中で、「自分の意見を正しく伝える力」の重要性を強く感じました。多くの人が関わり、かつトラブルの絶えない現場では、関わりのある方と意見を交わす機会が多くあります。その中で自分の考えを分かりやすく伝える必要があると思います。普段の生活では、相手の意見を尊重しすぎて自分の意見を通す力が足りていないと自覚しています。もちろん、社会人として相手を尊重する力も必要ですが、正しく考えを言語化する力も重要であると、今回の実習で学びました。この力をつけるために、普段から大学でのグループワーク等で、自分の意見を積極的に言うように意識したいと思います。

今回のインターンシップを通して、職員の皆様からお話を聞かせて頂いたことで、とても良い意味で「働く」という現実を知ることができました。この経験を活かして、自分の志望する業界の良い部分、そうでない部分を可能な限り理解した上で、就職後に理想とのギャップが生じることがなく、後悔のない進路決定ができるようにこれからも企業研究や業界研究に励みたいと思います。

〔株式会社DAY TO LIFE〕

企業　自分が目指す姿

生活科学部　食物栄養科学科　３年次

実習期間 8月10日～8月30日
実習時間 9：30～18：00

この10日間のインターンシップを通じて、自分がどのように生きたいか、どのような人間になりたいか、そしてどのように働きたいかを深く見つめ直すことができました。これまで「食品企業で働く」という漠然としたイメージを持っていましたが、実際の業務に触れることでその理解を深めることができました。

インターンシップ期間中、各部署の社員の方々とお話しする中で、食品企業のビジネスがいかに多岐にわたるかを学びました。特に印象的だったのは、店舗開発部での経験です。店舗開発部は、シュークリームを製造するのではなく、どこに出店すべきか、店舗のデザイン、インフラの整備といった、消費者に商品が届くまでのプロセスを総合的に支える重要な役割を果たしています。これを知り、ただ「食品企業に入りたい」という気持ちから、具体的にどのような業務で自分が貢献したいのか、より明確な目標を考えるようになりました。

また、このインターンシップを通じて、自分自身の課題にも気づかされました。それは、自分の言語化能力の不足です。ディスカッションやプレゼンテーションの場で、自分の考えや意見を的確に表現することが難しく、時には伝えたいことが長くなりすぎて要点がぼやけてしまうことがありました。この経験を通して、簡潔にわかりやすく伝える力の大切さを痛感しました。そのため、今後の目標として、プレゼンテーションや言語表現のスキルを磨いていくことに加え、日常的に読書をし、語彙力や表現力を高めることが必要だと考えました。実際、このインターンシップ後の１ヶ月間で、10冊以上の本を読み、少しずつですが、自分の思考を言葉にする力の向上に取り組んでいます。

このインターンシップでは、自分のキャリアビジョンを具体化すると同時に、課題を発見し、その改善に向けた行動を始める機会を得ました。さらに、他のインターンシップ生や社員の方々と意見を交わすことで、チームとして協力し合い、問題を解決する力の重要性も学びました。自分一人では気づかない視点や発想に触れることができたことも、大きな学びの一つです。

この経験は、私にとって成長の大きな一歩であり、将来に向けた貴重な財産となりました。このような貴重な機会を与えてくださったことに心から感謝しています。ありがとうございました。

オープンインターンシップ（大学協定型）
体験レポート

社会システム学科

〔北陸電力株式会社〕

企業

人々の暮らしを支える電力会社

現代社会学部　社会システム学科　３年次

私は北陸電力株式会社のインターンシップに参加し、５日間にわたって業界研究や再生エネルギーの課題解決について学びました。電力会社は社会インフラの根幹を担っており、安定した電力供給を通じて、人々の生活や産業活動を支えていることに魅力を感じ、今回インターンシップに参加しました。

１日目は電力会社の概要説明、火力部門の概要説明などを、２日目は営業・広報・総務部門の概要説明を聞きました。電力会社は火力発電、水力発電、風力発電、太陽光発電、原子力発電等、さまざまな方法で電気を生みだしており、どの発電方式を採用するかは地域の資源によって変化し、北陸電力は自然を生かすことのできる水力発電の割合が高いことを学びました。また、二酸化炭素排出量の削減や再生可能エネルギーの普及が求められていたり、天候に左右されやすい再生可能エネルギーでの安定供給の維持が課題となっており、今後も技術革新や環境問題への対応が不可欠であることを知りました。３日目以降は、再生可能エネルギー部門・立地用地部門の概要説明に加え、現場見学を行いました。鉄塔見学を通して、送電インフラがどれだけ広範囲にわたって電力を安定して供給しているかを実感しました。特に、鉄塔の高さや構造が電気の安全な送電に欠かせない役割を果たしていることを学びました。普段は鉄塔を目にとめることはあまりないのですが、この鉄塔がどれほど重要なものかを改めて理解することができました。また、電線の張り方や風対策といった技術的な側面についても学び、電力の安定供給を支える技術の複雑さを知ることができました。また、水力発電の見学も行い、現場で実際に電力の供給プロセスを目にしたことで、発電から配電に至るまでのエネルギー供給システムの仕組みを理解することができました。普段は入れないような場所を見学することができたのも大変貴重な機会だったと思いました。最終日には、再生可能エネルギーの導入をテーマにしたプレスリリースを作成し、発表しました。一から知識を得て話し合いを重ねた結果、エネルギー効率の重要性や持続可能なエネルギー供給のための課題を理解することができました。

このインターンシップを通して、電力会社がいかに社会全体を支える重要な役割を果たしているかを実感しました。特に、再生可能エネルギーの重要性や、安定供給を維持しながら環境負荷を軽減する技術革新に興味をもちました。今後、エネルギー問題に取り組むキャリアをさらに深めていきたいと考えています。また、今回のインターンシップではチームでのコミュニケーション能力や問題解決能力を向上させることができました。これからしばらく就職活動は続きますが、このインターンシップを通して得た経験を無駄にせず、さらなる自己の成長に繋げていこうと思いました。

〔大阪府庁〕

官公庁

公務員として働くということ

現代社会学部　社会システム学科　３年次

今回、大阪府庁のインターンシップに約２週間、参加させていただいた。

多くの人々の暮らしを支える府庁の業務内容についての知見を深めるため、実際に体験したいと考えた。特に、どのように人々の生活を豊かにできるのか、その実情を肌で感じたいという思いから、今回のインターンシップへの参加を決めた。

実習先では、技術専門学校やものづくりに関する広報活動をどのようにして行うのかという課題に取り組んだ。また、デスクワークだけでなく学校の見学やイベントのお手伝いなど様々なことに取り組み、実際に体験することや現場を視察して学ぶことが大切であると改めて理解できた。

今回の実習を通して、職員の方は府民の方と直接触れ合う機会は、市役所の職員の方と比べて少ない。しかし、確実に府民の方々の生活等を支えていて、多種多様な業務に携わっていることが理解できた。

インターンシップを通して、実際に経験や体験を通して知ることの大切さが改めて分かった。職員の方のお話を聞いて、公務員だけでなく、社会人として働くためには常に学び続けることが大切であると理解できた。

反省点としては、分からないことや疑問に思ったことをその場で確認せず、自分の判断のまま進めてしまったことである。自分で考えることに囚われすぎて、誰かにアドバイスを求めることができなかった場面があった。今後、分からないことや疑問に思ったことは必ず確認しようと思う。今まで視野が狭かったので、今回の実習で初めて知ったことや学んだことが沢山あった。これからは、興味があることだけではなく、様々な経験をすること、本を読むことなどで見聞を広げたい。

また、広報施策の立案の際、他の実習生の発表を聞いて、様々なアプローチがあると感じた。私の案はありきたりであった。SNSで広報をしていくという案しか思い浮かばなかったので、一つの視点だけでなく、多方向から物事を考えられるようになりたいと思った。

また、公務員だけでなく社会人として大切なことは、一つ一つの仕事に対して優先順位をつけること、チーム作業がほとんどであるので、協調性が大切であると改めて学んだ。

今後、このインターンシップを通して学んだことや気付いたことを活かして、大学での生活をより充実したものにしていきたい。

〔和歌山県庁〕

官公庁

和歌山県庁での職場体験を通して

現代社会学部　社会システム学科　３年次

私は和歌山県庁のインターンシップに参加し、広報課で実習を行った。県庁を志望した理由は、将来公務員を目指しており、出身である和歌山の魅力を知りたい、地域に貢献したいと考えていたからである。また、広報誌が毎月自宅に届いており、どのように作成されているのかを学びたいと考えていた。

広報課は、和歌山県の魅力を広報誌やSNS等で発信したり、情報収集のために取材に携わったりする部署である。広報誌は県民だけでなく、県外の人々にも情報を発信することで、和歌山の魅力をさらに知ってもらうことができる。広報誌以外に、SNSやテレビ、ラジオでも情報を発信している。実際に広報誌が完成するまでの編集のお話を聞いたり、SNSに投稿する文章作成を体験したりした。幅広い年齢層に伝わる表現の難しさ、地域住民に正確な情報をお届けすることの大切さを学んだ。

広報に携わる業務だけでなく、記者会見や資料提供の準備、記者の報道対応など、イメージとは違った業務を行っていることが分かった。実際には、知事が行う記者会見や知事との対談の様子を拝見したり、会見で知事が話した内容の修正や動画のアップロードなどを行ったりと、知事との距離が近く、貴重な初めての体験をすることができた。また記者との距離が近いことに驚き、記者との対応もしっかりと行うことが大切だと気づいた。

ラジオ収録やロケ、取材の立ち会いをすることができた。ラジオの収録や取材に立ち会う機会は少なく、ラジオで話すテーマについても知らなかったが、実際の体験ができ、沢山学ぶことができた。初めてロケ地に行ったため、自分が住んでいる地域の観光や食べ物などの魅力が和歌山には沢山あるのだと気づいた。

和歌山県全体のことを学べることが、和歌山県庁において良い点であると思う。市町村では、その市町村のことしか知ることができないが、県庁では特定の地域に限らず県全体の情報を広範囲にわたって知ることができる。例えば、観光スポットや食べ物といった和歌山県ならではの魅力が挙げられる。これまで知らなかった和歌山県の魅力をさらに知ることができたり、実際にその場所に行って様々な体験ができる。自分が住む市町村だけでなく、他の市町村の魅力にも気づくことができ、実際にその場所に行ってみたいと思うことができた。和歌山県庁で貴重な体験ができ、和歌山の魅力をさらに知ることができたことで、もっと和歌山の魅力を発信していきたいと感じた。また、新しい環境で働くと、緊張などがあり体調面で辛くなってしまったり、疲れが溜まってしまったりすることがある。だからこそ、自分の体調管理には十分注意しながら、自己管理を徹底することが大事だと改めて思った。

日本語日本文学科

〔舞鶴市役所〕

官公庁

インターンシップを終えて

表象文化学部　日本語日本文学科　３年次

私は、公務員の働き方や現場の雰囲気を知りたいと思い、２日間の舞鶴市役所のインターンシップに参加させていただきました。民間企業と公務員のどちらに重点を置いて就職活動を行うか、夏休みの間に決断したかったことも理由です。

インターンシップでは、１日目に市民協働推進課、２日目に農林課でそれぞれの職場実習に参加しました。市民協働推進課は、「地域の新たなつながりづくりの促進」を目指して支援に取り組んでいる課です。今回は、地域づくりを行っている市民の方(ブルーベリー農園)に、仕事を始めたきっかけや今後の展望についてお話を伺いました。地域の少子高齢化への危機感など、市民の生の声を聞くことは貴重な経験になりました。農林課では、前半に市から支援を受けている農地で農業が行われているかの現地確認に同行させていただき、後半は舞鶴発祥の万願寺甘とうの生産者を訪問し、舞鶴市の取り組みの１つである「スマート農業」についてや、今年の作況状況についてお話を伺いました。現地確認は、市が支援を行っている農地をすべて回る必要があるのですが、職員の方々は以前の農地の状況まで一か所ずつ教えてくださいました。農家の皆様お一人お一人とのつながりをとても大切にされている課だと思いました。

公務員はデスクワーク中心のイメージを持っていたため、配属される部署・課によっては外に出ることが多い場合があることを知り驚きました。また、市役所の職員の仕事内容の広さを実感しました。

職員の方々との交流会では、「市役所は数年で部署異動があるため、異動初年度は大変だが、知識の幅が広がり、自分の好きなことを見つけられる」というお話に惹かれました。

インターンシップを通して、社会に出ると全て自分で考えて行動する必要があるため、積極性を身につける必要があると思いました。就職活動にむけてや自己分析をする上で貴重な経験ができて良かったです。

アンケート結果

このアンケートは2024年度インターンシップＩＡ・ＩＢに参加した学生と参加企業を対象に行いました。

☆参加学生へのアンケート結果

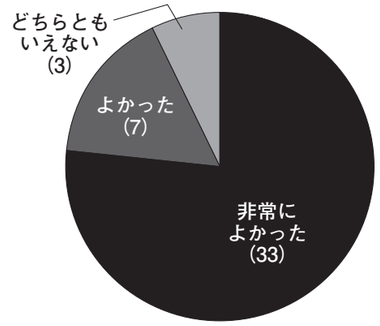
1 参加動機（複数回答可）

1．職業観を養うため	17
2．自分の職業適性を知るため	14
3．将来の就職先として希望している業界・職種を実体験するため	7
4．職業社会において必要な力を養うため	4
5．大学で学んだことを実際の社会で体験するため	1
6．その他	0
	43

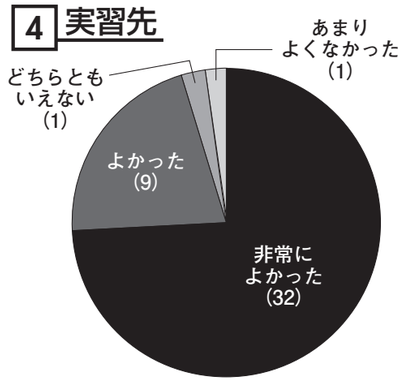
2 実習先の選択基準

1．就職を希望する業界または職種で選んだ	26
2．実習内容で選んだ	16
3．有名企業・団体だから	0
4．就業体験できればどこでもよかった	0
5．その他	1
	43

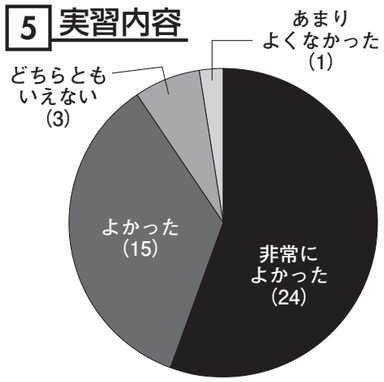
3 インターンシップに参加して



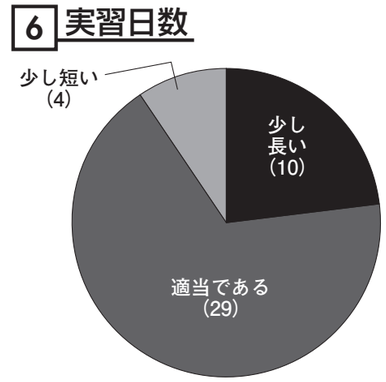
4 実習先



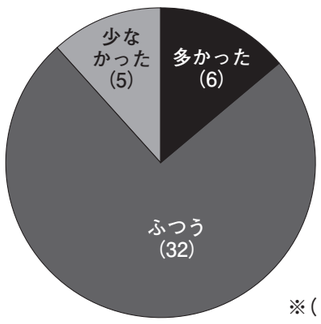
5 実習内容



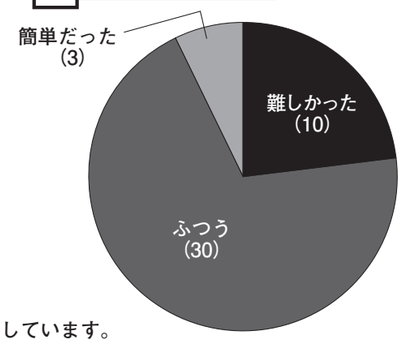
6 実習日数



7 仕事の量

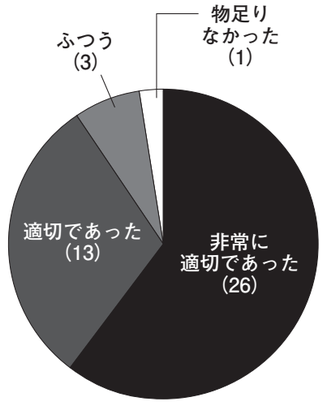


8 仕事の難易度

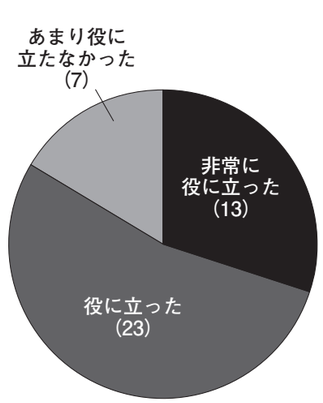


※（ ）内は人数を表しています。

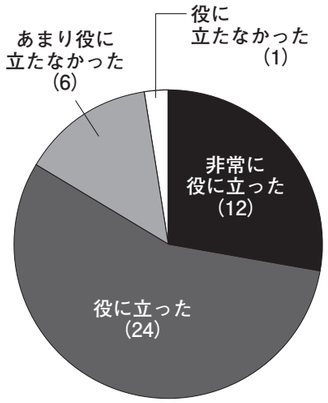
9 実習における指導



10 実習簿

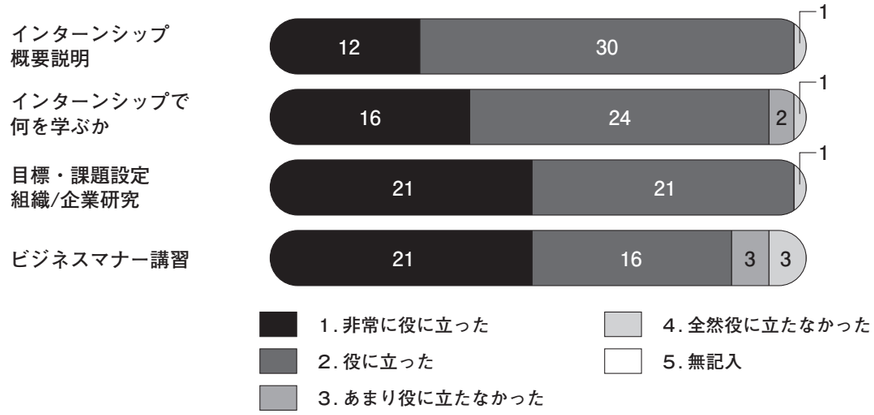


11 事前課題

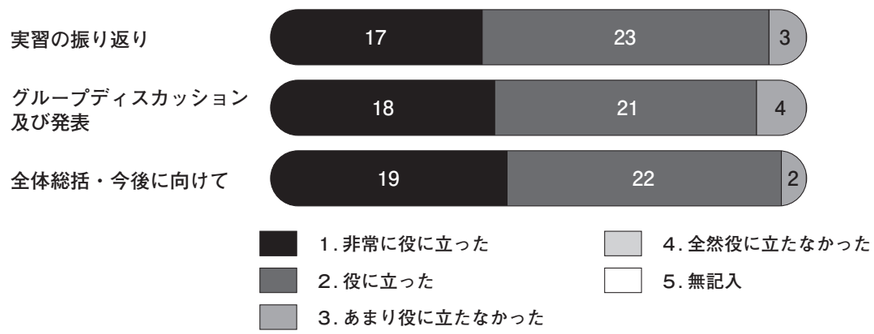


※（ ）内は人数を表しています。

12 事前指導講義（該当するものに○印をつけてください）

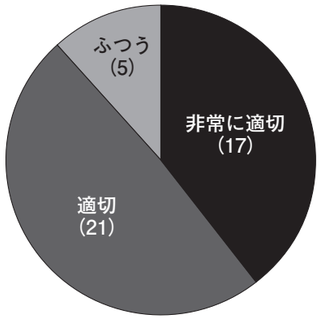


13 事後指導講義（該当するものに○印をつけてください）



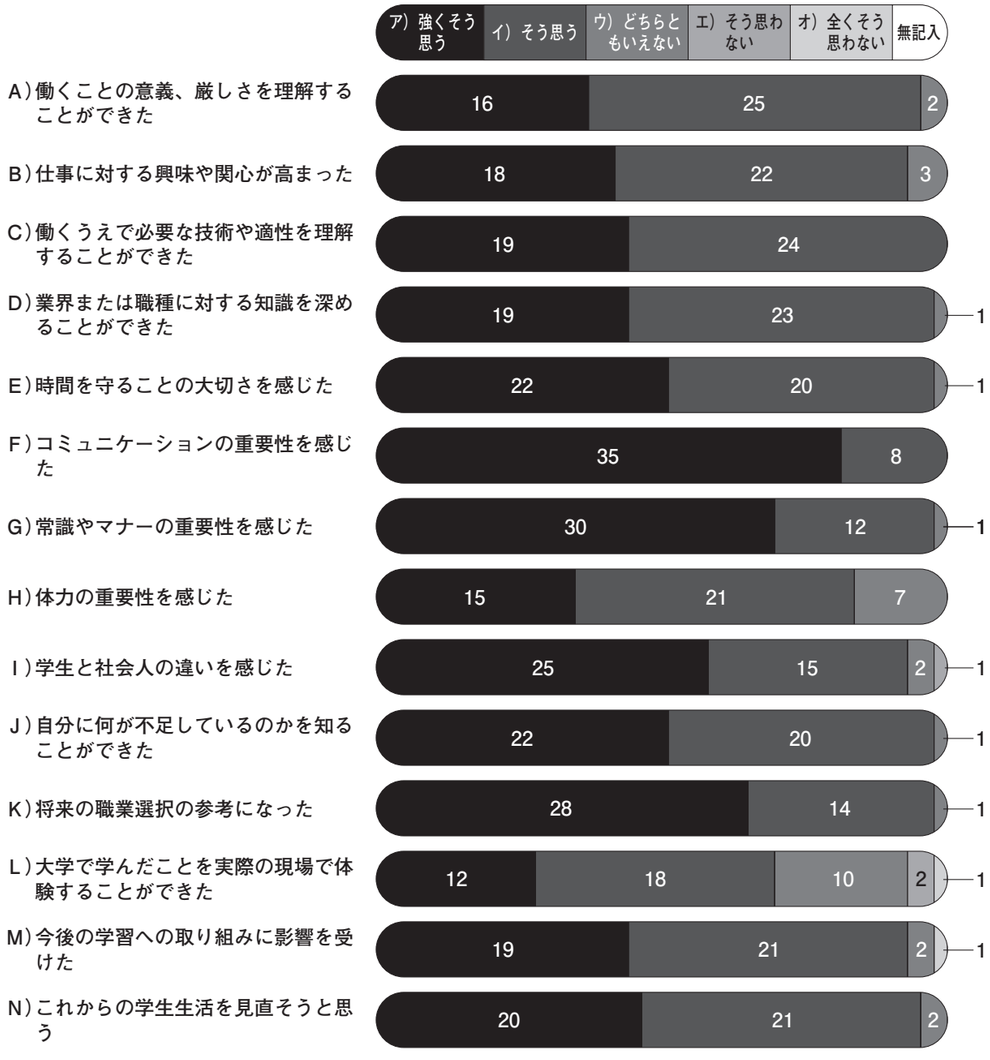
※グラフ内の数字は人数を表しています。

14 インターンシップ期間中（事前指導講義～実習～事後指導講義も含む）の大学のフォロー体制について



※（　）内は人数を表しています。

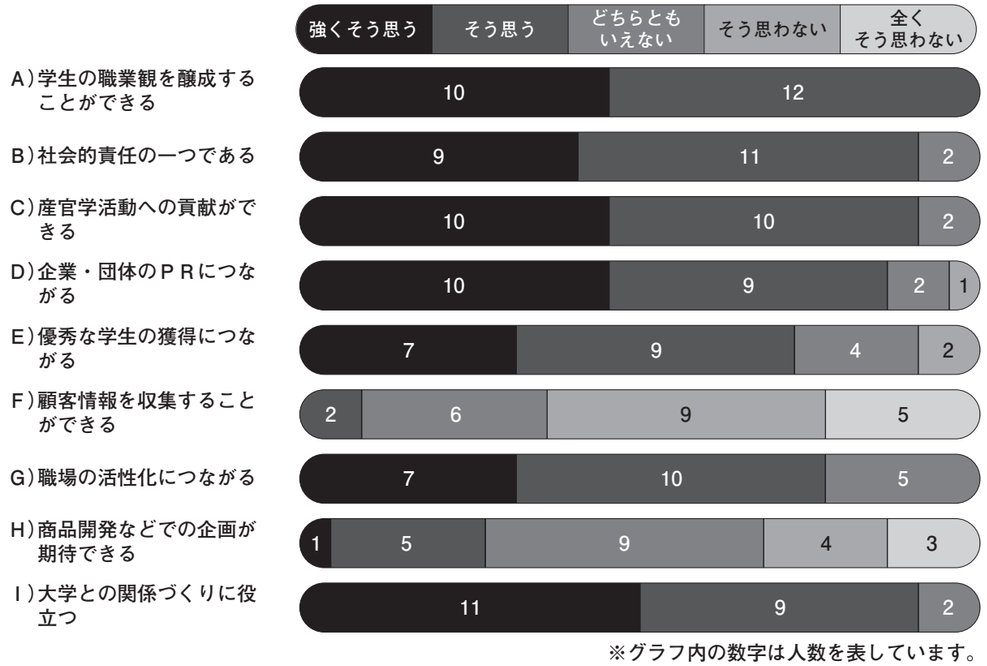
15 次のA～Nの項目について右欄の該当するものに○印をつけてください



※グラフ内の数字は人数を表しています。

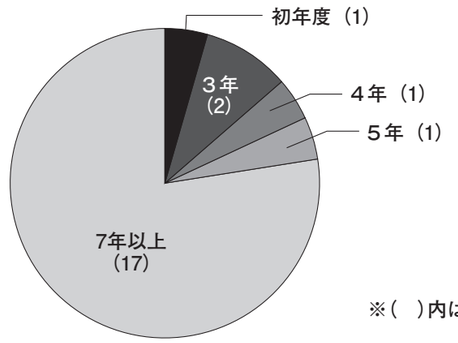
☆参加いただいた企業（22社）へのアンケート結果

1 インターンシップに対してどのようにお考えですか



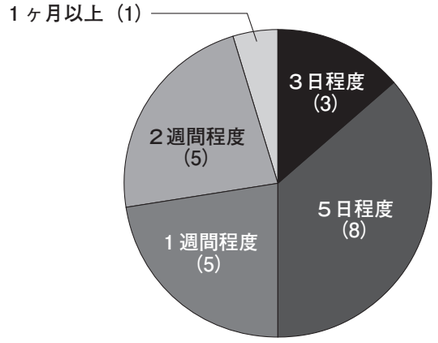
※グラフ内の数字は人数を表しています。

2 インターンシップ実習生の受け入れは何年目ですか（本学以外の学生の受け入れを含む）



※（　）内は人数を表しています。

3 今年度のインターンシップをふまえて、実習日数はどの程度が望ましいですか

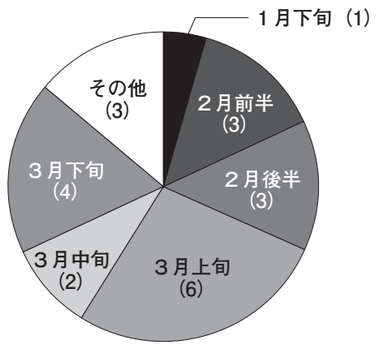


※（　）内は人数を表しています。

4 貴社・貴団体がインターンシップを実施される上での、課題・問題点としてあてはまるものがあれば選択してください（複数回答可）

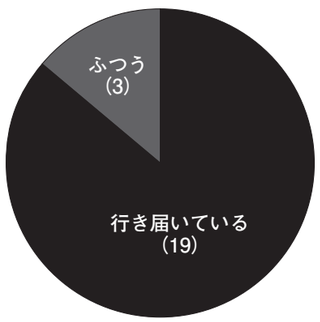
1．受け入れのためのコスト負担	1
2．受け入れのための人的、時間的負担	15
3．受け入れのノウハウ不足	5
4．社内受け入れ現場での理解	6
5．実習部署の設定	8
6．実習内容の設定	10
7．アルバイトとの差異	0
8．書類等手続き等の煩雑さ	1
9．事故発生時の対応	3
10．その他	3
	52

5 事前準備に関してお聞かせください 本学からの受け入れ依頼時期について、いつ頃が適当とお考えですか



※（ ）内は人数を表しています。

6 本学での事前指導についてお聞かせください



※（ ）内は人数を表しています。

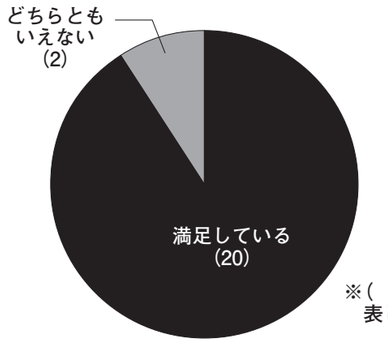
7 受け入れていただいた学生の実習態度はいかがでしたか

1．非常に意欲的であった	18
2．意欲的であった	3
3．ふつう	1
4．その他	0
	22

8 実習参加にあたり、学生に望まれることは何ですか（複数回答可）

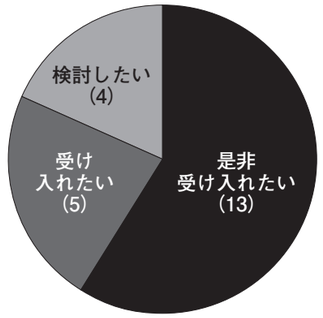
1．参加への目的意識	22
2．取り組み意欲	18
3．基本的なマナーの習得	9
4．スキル修得（PC、語学等）	0
5．事前学習（受入企業、業界研究等）	7
6．その他	0
	56

9 今年度のインターンシップは満足いくものとなりましたか



※（ ）内は人数を表しています。

10 次年度の受け入れについてお聞かせください 次年度の受け入れ可否について

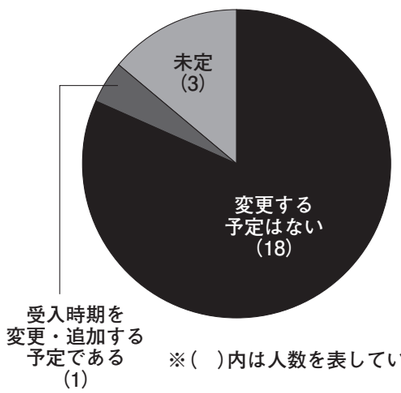


※（ ）内は人数を表しています。

11 受入期間（日数）を変更される予定はございますか

※（ ）内は人数を表しています。

12 2025年度のインターンシップの時期を、現行の夏期休暇中から変更される予定はございますか



※（ ）内は人数を表しています。

受入時期を変更・追加する予定である
（受入予定時期全てを選択してください）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
0	0	0	0	0	1
10月	11月	12月	1月	2月	3月
0	0	0	0	1	0

2025年2月発行
編集・発行　　同志社女子大学　キャリア支援部キャリア支援課